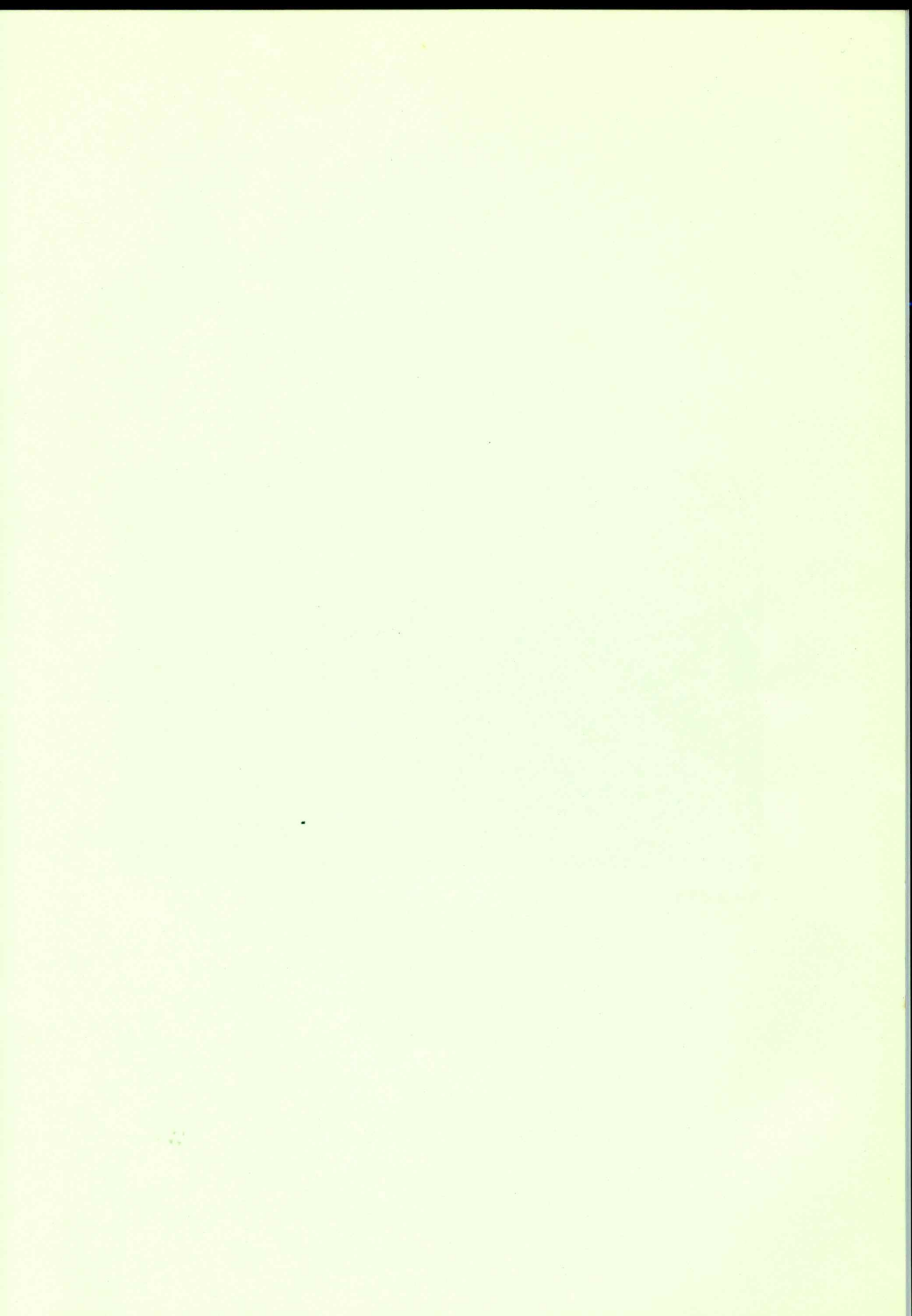


みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報

平成6年度

CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART





千葉県立美術館外觀

目 次

ごあいさつ	1
沿 革	2
美術館誌	3
事業一覧	4
展示事業	5
常 設 展	6
特 別 展	18
企 画 展	25
普及事業	26
教育普及	27
情報資料室・刊行物一覧	30
活動協力	31
調査・収集事業	33
収蔵資料	34
管理運営	36
機 構	37
利用状況	39
展示室利用団体	40
施 設	44
関係法令等	48
平成7年度主要事業	49
平成7年度職員	50
利用案内	51

ごあいさつ

平成6年度の千葉県立美術館活動の実績を年報としてまとめました。

本館は昭和49年の開館以来の運営方針であります“みる・かたる・つくる”を基本として、県民のさまざまな美術に対する要望にこたえるよう努めてきております。

6年度は、特別展として、「イタリア・謎と神話」と、開館20周年記念展として「房総の美術」を開催しました。

一方、本館が収蔵する作品の展示については、一層の充実、強化に努め、常設展を種々のテーマに基づき開催したほか、館外における移動美術館も2地域で実施しました。

また、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、展覧会に関連づけて美術講演会を開催するとともに、美術の各分野にわたる実技講座を実施し、ますます高まっている県民の美術創作への意欲にこたえてまいりました。

さらに、本館が収蔵すべき作品の収集については、既に策定されている基本方針に基づき、作家や所蔵家の協力を得ながら、コレクションの体系化とその充実化を図りました。

今後とも、関係諸機関や各団体をはじめ、県民の皆様方の御指導と御支援をお願いいたします。

平成 7 年 7 月

千葉県立美術館

沿 革

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基づき建設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備室を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた、同51年に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アトリエ棟、更に同63年8月に増築工事の展示棟及び収蔵庫が完成した。

昭和44年12月9日 第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる（委員15名）
 昭和45年1月19日 県立美術館建設の請願書が2月県議会で採決される
 昭和45年7月24日 建設地として千葉公園に内定する
 昭和45年11月12日 第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる（委員10名）
 昭和46年3月31日 千葉公園内の美術館基本構想成る
 昭和46年6月24日 体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる
 代案として千葉市中央港埋立地が提示される
 昭和47年1月5日 建設地を千葉市中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する
 昭和47年3月31日 基本設計完了する（株式会社大高建築設計事務所）
 昭和47年7月31日 展示棟 第1期工事の実施設計完了する
 昭和47年9月21日 展示棟杭打工事着工
 昭和47年10月13日 展示棟建築工事請負契約議案可決される
 昭和47年12月10日 展示棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）
 昭和48年4月1日 文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たる
 昭和48年11月30日 管理棟（第2期工事）の実施設計完了する
 昭和49年3月31日 展示棟竣工
 昭和49年4月1日 千葉県立美術館発足する（職員14名）
 昭和49年10月23日 開館記念式典を行う
 昭和49年10月24日 開館記念展「千葉県美術展覧会」を開催 一般公開を始める
 昭和50年2月21日 管理棟杭打工事着工

昭和50年3月13日 管理棟建築工事請負契約議案可決される
 昭和50年3月16日 管理棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）
 昭和51年2月20日 管理棟竣工
 昭和51年3月2日 管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する
 昭和51年6月7日 寄附によって、正面玄関に植栽を行う
 昭和52年3月12日 彫刻の屋外展示を始める
 昭和52年4月10日 展示棟の一室に美術普及室を開設する
 昭和53年1月18日 外構工事として、駐車場が拡張され、100台の収容となる
 昭和53年2月21日 美術普及棟の準備会が発足する
 昭和53年10月17日 美術普及棟建築予算が計上される
 昭和53年11月18日 浅井忠像 完成除幕式
 昭和53年11月30日 美術普及棟実施設計完了する
 昭和54年1月8日 美術普及棟を県民アトリエ棟と改称する
 昭和54年3月5日 県民アトリエ棟建築工事請負契約議案可決される
 昭和54年3月22日 県民アトリエ棟建築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）
 昭和55年2月29日 県民アトリエ棟竣工
 昭和55年3月16日 県民アトリエ棟完成記念講演会
 昭和55年4月1日 千葉県美術品取得基金条例施行される
 昭和55年9月9日 県民アトリエ棟情報資料室を開設する
 昭和58年7月29日 美術普及コーナーを開設する
 昭和58年11月12日 開館10周年と県展開催35周年を記念した記念碑を建立する
 昭和61年3月25日 展示棟、収蔵庫、機械室増築工事設計料の予算化
 昭和61年4月10日 入口門扉4カ所設置
 昭和61年4月23日 美術館西側沿道寄りの生垣植栽
 昭和61年8月12日 講堂浸水防止工事
 昭和62年3月25日 機械室増築基本設計及び展示棟、収蔵庫、機械室増築工事実施設計完了する
 昭和62年10月15日 展示棟、収蔵庫、機械室増築工事着工（監理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店）

昭和63年 5月20日 受水槽設備改修工事（地上式）着工
昭和63年 8月31日 受水槽設備改修工事（地上式）完了する
昭和63年 8月31日 展示棟，収蔵庫，機械室増築工事完了する
平成元年 2月28日 増築展示棟周辺芝張り工事完了する
平成元年 4月 1日 普及課が新設され，3課となる
平成元年 4月20日 開館15周年記念特別展「房総と近代美術」を開催する
平成元年 9月11日 空調機改修工事実施設計完了する
平成 2年 6月 8日 空調機改修工事完了する
平成 2年 9月29日 収蔵庫（第1，2室）冷凍機改修工事着工
平成 2年11月 7日 案内標識改修工事着工
平成 3年 1月31日 収蔵庫（第1，2室）冷凍機改修工事完了する
平成 3年 2月20日 案内標識改修工事完了する
平成 3年12月 6日 空調用ポンプ改修工事完了する
平成 4年 4月 1日 運営の一部が（財）千葉県社会教育施設管理財団へ委託される
平成 4年10月20日 温湿度記録装置改修工事完了する
平成 4年12月18日 食堂改修工事完了する

平成6年度美術館誌

4月 1日 辞令交付
常設収蔵作品展「新収蔵作品」
「宮之原謙の陶芸」
（5月8日まで）
5月14日 特別展「イタリア・謎と神話」
常設収蔵作品展「フォンタネージと浅井忠」
（6月19日まで）
24日 洋画講座 （6月30日まで 日数9日）
28日 第1回美術講演会
6月14日 日本画講座 （6月29日まで 日数12日）
25日 常設収蔵作品展「石井林響の日本画」
「浜口陽三・深沢幸雄の版画」
「素描の世界」
（7月17日まで）
7月 5日 版画講座 （7月20日まで 日数12日）
23日 特別展「房総の美術」第1部
（8月28日まで）
25日 博物館実習 （7月30日まで）
30日 第2回美術講演会
9月 1日 彫刻講座 （9月14日まで 日数10日）
3日 特別展「房総の美術」第2部
（10月9日まで）
10日 第3回美術講演会
24日 ミュージアムコンサート
10月18日 陶芸講座 （12月7日まで 日数7日）
11月 9日 書芸講座 （11月11日まで 日数3日）
12日 常設収蔵作品展「房総の染織」
（1月22日まで）
18日 企画展「第18回千葉県移動美術館」
（夷隅町文化会館 11月30日まで）
26日 常設収蔵作品展「描かれた房総」
（1月22日まで）
12月 3日 企画展「第18回千葉県移動美術館」
（成田国際文化会館 12月18日まで）
1月18日 金工講座 （2月2日まで 日数12日）
28日 常設収蔵作品展「水彩画の世界」
「香取秀真・津田信夫の金工」
（2月26日まで）
2月 4日 第4回美術講演会
3月 4日 常設収蔵作品展「浅井忠」（3月26日まで）

事業一覧

月	み	る	か	た	る	つ	く	る
4	常設収蔵作品展「新収蔵作品」 「宮之原謙の陶芸」	4/1～5/8						
5	特別展「イタリア・謎と神話」 5/14～6/19 常設収蔵作品展「フォンタネージと浅井忠」 5/14～6/19		第1回美術講演会		5/28	洋画講座 5/24～6/3 (日数9日) ㊤洋画入門講座1 5/17～22 (日数6日)		
6	常設収蔵作品展「石井林響の日本画」 「浜口陽三・深沢幸雄の版画」 「素描の世界」 6/25～7/17					日本画講座 6/14～6/29 (日数12日) ㊤洋画入門講座2 6/7～12 (日数6日)		
7	特別展「房総の美術」第1部 7/23～8/28		第2回美術講演会		7/30	版画講座 7/5～7/20 (日数12日) ㊤デッサン入門講座1 7/28～31 (日数4日)		
8						㊤洋画入門講座3 8/2～7 (日数6日) ㊤洋画入門講座4 8/23～28 (日数6日)		
9	特別展「房総の美術」第2部 9/3～10/9		第3回美術講演会 ミュージアムコンサート		9/10 9/24	彫刻講座 9/1～14 (日数6日)		
10						陶芸講座 10/18～12/7 (日数7日) ㊤洋画入門講座5 10/25～30 (日数6日)		
11	常設収蔵作品展「房総の染織」11/12～1/22 企画展「第18回千葉県移動美術館」 (夷隅町) 11/18～30 常設収蔵作品展「描かれた房総」 11/26～1/22					書芸講座 11/9～11 (日数3日) ㊤日本画入門講座 11/15～20 (日数6日)		
12	企画展「第18回千葉県移動美術館」 (成田市) 12/3～18					㊤洋画入門講座6 12/6～11 (日数6日)		
1	常設収蔵作品展「水彩画の世界」 「香取秀真・津田信夫の金工」 1/28～2/26					金工講座 1/18～2/2 (日数12日) ㊤洋画入門講座7 1/31～2/5 (日数6日)		
2			第4回美術講演会		2/4			
3	常設収蔵作品展「浅井忠」	3/4～26				㊤デッサン入門講座2 3/1～4 (日数4日) ㊤洋画入門講座8 3/7～12 (日数6日)		

※㊤は友の会主催講座
美術団体展は、P40に掲載

展 示 事 業

常設収蔵作品展は、「宮之原謙の陶芸」、「フォンタネージと浅井忠」、「房総の染織」、「描かれた房総」など、テーマ性をより強めた構成により開催した。

特別展としては、「イタリア・謎と神話」と、開館20周年記念展として、2期に分けて「房総の美術」を実施した。

なお、企画展は、開館20周年記念事業のため「第18回千葉県移動美術館」のみの開催となった。

常 設 展

常設 収蔵作品展「新収蔵作品」「宮之原謙の陶芸」

「新収蔵作品」では、平成5年度にあらたに収蔵した作品を紹介した。

「宮之原謙の陶芸」では、松戸市に築窯し、近代陶芸史に多大な足跡を残した宮之原謙に焦点をあて紹介した。

会 期	平成6年4月1日(金)～5月8日(日)	33日間
展示点数	「新収蔵作品」	93点
	「宮之原謙の陶芸」	19点
入場者数	15,178人	

出 品 目 録

「新収蔵作品」

No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年	No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年
<日本画>				24	佐 善 明	エルパソの居留区	1980
1	楫取魚彦	登 龍 門		25	〃	New York Letter	1984
<洋画>				26	〃	サンフランシスコ昼下がり	1987
1	フランソワ・オーギヤスト・ラヴ・グ・イ・エ	た そ が れ	1885	27	十亀広太郎	道	1921
2	〃	モレステル風景	1867～95	28	〃	女	1924
3	〃	モレステル風景(沼)	〃	29	〃	上野公園池畔	〃
4	〃	川 辺	〃	30	〃	池	1950
5	赤城泰舒	普陀正趣亭	1936	31	〃	湖畔の樹	
6	〃	高士観瀑	1936頃	32	〃	犬吠埼	
7	〃	多宝塔	〃	33	行木正義	コンボジションB	1952
8	浅井 忠	房州白浜	1886	34	〃	作品G	1975
9	〃	小丹波村	1893	35	〃	作品81	1981
10	〃	旅順戦後の捜索	1895	36	〃	空間志向	1989
11	〃	白樺(図案)		37	〃	空間吟詠	1990
12	〃	鶯鳥(図案)		<彫刻>			
13	石井光楓	タ コ マ	1925	1	笠原鉄明	帰る日	1993
14	〃	ブルタニューにて	1931	2	田中 毅	草枕の旅	〃
15	〃	初 霜	1964	3	中岡慎太郎	“FANTASY”	〃
16	〃	山番の小屋	1971	4	長谷川昂	花の国の母神	1961
17	〃	アーブル市・場末		5	〃	朝	1979
18	〃	荷 揚 げ		<工芸>			
19	国枝金三	大阪風景	1909	1	秋山逸生	蝶貝象嵌小箱	
20	櫻田精一	追 憶	1974	2	川上祥三郎	黄釉鳥紋大花器	1975
21	〃	白 い 舟	1985	3	〃	釉彩草文大皿	1984
22	佐 善 明	ソフィスティケートな出会い	1970	4	中 基 瑞 真	桐 経 箱	1992
23	〃	シーサイドアベニュー	1979				

No.	作家名	作品名	制作年
5	中 臺 瑞 真	十 六 弁 菱 形 盤	
6	"	桐 菱 形 塗 輪 花 盛 器	
7	信 田 洋	透 彫 菖 蒲 文 筥	
8	二 口 志 保 子	緑 の 頃	1961
9	"	翔 け る	1964
10	"	水 面	1967
11	"	動	1968
12	"	初 夏	1969
13	"	花	
14	"	紬 織 着 物	

<版画>

1	川 瀬 巴 水	房 州 太 海	1925
2	"	市 川 の 晩 秋	1930
3	深 沢 幸 雄	記 録	1965
4	"	洞 窟	1966
5	"	伝 説	"
6	"	扉 た ち	1967
7	"	扉 と 訪 問 者 (青)	"
8	"	行 き ず り の 人 (青)	1968
9	"	悠 久 に 続 く 赤 い 線	1971
10	"	奈 落	"
11	"	遺 伝 (青い影)	1972
12	"	胎 動 (メヒコ)	1975
13	"	影 の 中 の 恋 人	1978
14	"	こ の 遥 か な 遠 い 道	1979
15	"	天 空 を 計 る	"
16	"	新 し き 土	1981
17	"	訪 ね て く る 人	1982
18	"	城 郭 の 中 の 人	1983
19	"	星 屑 劇 場	"
20	"	憂 愁 市 街	1984
21	"	憂 愁 市 街 (迷 路)	1985
22	"	顔 の 地 図	1988
23	"	小 鳥 紳 士	"
24	"	ロ ッ ク	1990
25	"	白 い 抒 情 の 人	1992
26	"	憂 愁 の 裸 像	"

<書>

1	小 川 瓦 木	叙 情	1959
2	"	侃 の イ メ ー ジ	1963
3	"	了 々	1988
4	高 澤 南 総	藝 に 游 ぶ	1979
5	"	墨 緑	"
6	"	春 風 秋 月	1981
7	"	龍 虎	1988

No.	作家名	作品名	制作年
8	千代倉桜舟	宗左近詩(縄文太鼓より)	1993
9	"	大王のひすめの音も…	1979
10	中村象閣	万葉二首	1994

「宮之原謙の陶芸」

1	宮之原謙	壁 面 照 明 銀 河	1931
2	"	象 嵌 十 字 星 結 晶 花 挿	1932
3	"	盛 上 磁 連 星 壺	1933頃
4	"	白 釉 茶 碗	"
5	"	天 目 釉 草 花 文 壺	"
6	"	牡 丹 文 盛 上 水 指	1935頃
7	"	白磁四方百合象嵌大皿	"
8	"	象 嵌 磁 盛 上 花 蝶 鉢	1938頃
9	"	鉄 釉 牡 丹 唐 草 彫 文 壺	"
10	"	天 目 釉 蓮 蕾 彫 文 壺	1940頃
11	"	盛 上 磁 葡 萄 唐 草 壺	1943
12	"	彩 地 盛 連 葉 文 壺	1955頃
13	"	象 嵌 磁 鉢	1968
14	"	鉄 茶 釉 鱗 文 花 瓶	1975頃
15	"	釉 嵌 よ ろ け 縞 と 盛 上 門 壺	
16	"	象 嵌 磁 サ ボ テ ン 壺	
17	"	白 掛 刻 文 茶 碗	
18	"	"	
19	"	香 炉	



浅井忠「小丹波村」

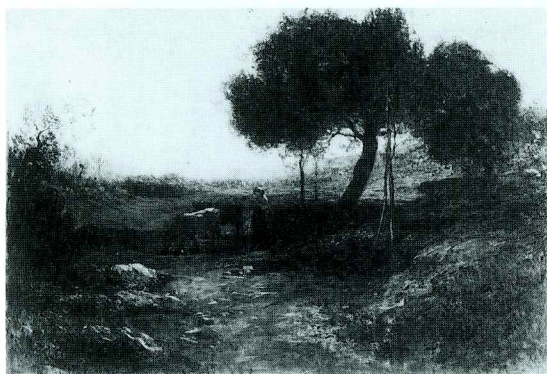
常設 収蔵作品展「フォンタネージと浅井忠」

「フォンタネージと浅井忠」では、明治9年に創設された工部美術学校に招かれたイタリア人教師、アントニオ・フォンタネージと、同校で彼に学び、日本近代洋画の先駆者として活躍した浅井忠の作品を紹介した。

会 期 平成6年5月14日(土)～6月19日(日) 32日間
 展示点数 27点
 入場者数 17,598人

出 品 目 録

No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年	No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年
<洋画>				15	浅 井 忠	風 景	1878頃
1	フォンタネージ	十月、牧場の夕べ	1860	16	〃	鍛 冶 橋	〃
2	〃	牛 を 追 う 農 婦	1862頃	17	〃	風 景 (1)	〃
3	〃	水 汲 み 場 風 景	1863頃	18	〃	〃 (2)	〃
4	〃	川 辺 の 二 頭 の 牛	1865頃	19	〃	女 の 顔 (模写)	1876～78
5	〃	森 の 空 地 の 農 婦	〃	20	〃	沢 入 駅	1884
6	〃	木 立	1870頃	21	〃	溪 流	〃
7	〃	池 と 樹 木	1870～72	22	〃	曳 舟 通 り	1885
8	〃	羊 飼 い の 少 女	1863～74	23	〃	藁 屋 根	1887頃
9	〃	神 女 之 図	1876～78	24	〃	磐 梯 山 の 図	1888
10	〃	風 景 (1)		25	〃	小 丹 波 村	1893
11	〃	〃 (2)		26	〃	石 膏 臨 画	
12	〃	水 遊 び		<研究資料>			
13	浅 井 忠	少 女	1877	1	浅 井 忠	ス ケ ッ チ ブ ッ ク	
14	〃	印 旛 ・ 沼	1878頃				



フォンタネージ「十月、牧場の夕べ」



浅井 忠「藁屋根」

常設 収蔵作品展「石井林響の日本画」「浜口陽三・深沢幸雄の版画」「素描の世界」

「石井林響の日本画」では、旧制千葉中学で堀江正章に学び、日本画の革新運動に大きな足跡を残した本県出身の日本画家、石井林響の作品を紹介した。

「浜口陽三・深沢幸雄の版画」では、国際舞台で数多くの賞を受賞し、日本の代表的な版画家として活躍している本県ゆかりの浜口陽三、深沢幸雄の作品を紹介した。

「素描の世界」では、その技法に焦点をあて、各作家の対象をとらえる描写力と率直なイメージが表現される素描の魅力を紹介した。

会 期	平成6年6月25日(土)～7月17日(日)	20日間
展示点数	「石井林響の日本画」	42点
	「浜口陽三・深沢幸雄の版画」	61点
	「素描の世界」	35点
入場者数	8,881人	

出 品 目 録

「石井林響の日本画」

No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年	No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年
1	石 井 林 響	木 華 開 耶 姫	1906	27	石 井 林 響	白 衣 の 老 人	
2	〃	羅 浮 仙 女		28	〃	老 人 と 船	
3	〃	瑞 鶴		29	〃	寒 山 拾 得	
4	〃	松 に 鴉		30	〃	崖 に 向 か う 老 人	
5	〃	山 水		31	〃	老 松 白 鷺 之 図	
6	〃	唐 美 人		32	〃	唐 獅 子	
7	〃	夜 道 を 駆 け る 人		33	〃	浦 島 太 郎 図	
8	〃	高 士 観 瀑		34	〃	岩 魚 つ り	1926
9	〃	春 秋		35	〃	舟 遊 図	
10	〃	漁 樵	1913	36	〃	桃 源	
11	〃	桃 源	〃	37	〃	釣 人	1927
12	〃	梅 花 小 禽		38	〃	蓬 萊 仙 境 之 図	〃
13	〃	白 閑 鳥		39	〃	秋 景 山 水	1928
14	〃	葦 に 鳥		40	〃	山 水 図	〃
15	〃	弁 財 天		<研究資料>			
16	〃	蘇 武					
17	〃	梅 花 書 屋					
18	〃	雨 後 浮 船		1	石 井 林 響	石 井 林 響 印 譜	
19	〃	嵐		2	〃	松 茸	
20	〃	葦 と 白 鳥		「浜口陽三・深沢幸雄の版画」			
21	〃	達 磨					
22	〃	竹 花 鳥		1	浜 口 陽 三	顔	1954
23	〃	櫻		2	〃	パ リ の 屋 根	1956
24	〃	冬 景 色		3	〃	ざ く ろ	1958
25	〃	夏 山		4	〃	う い き よ う	〃
26	〃	釣 人		5	〃	て ん と う 虫	1960

No.	作家名	作品名	制作年	No.	作家名	作品名	制作年
6	浜口陽三	トリコット	1962	53	深沢幸雄	訪ねてくる人	1982
7	"	赤い鉢と黒いさくらんぼ	1966	54	"	酒場にて	1983
8	"	びんとさくらんぼ	1971	55	"	星屑劇場	"
9	"	赤い鉢	"	56	"	顔は迷路	1988
10	"	190と1匹	1975	57	"	小鳥紳士	"
11	"	2匹のてんとう虫	"	58	"	樹精	1990
12	"	1/4のレモン	1976	59	"	ロック	"
13	"	さくらんぼと青い鉢	"	60	"	白い抒情の人	1992
14	"	二匹の蝶	1977	61	"	誇り高き男	"
15	"	毛糸	1978	「素描の世界」			
16	"	3つのポプラ	1980				
17	"	西瓜	1981	1	浅井忠	風景(2)	1878頃
18	"	ロビーナのさくらんぼ(15枚組)	"	2	"	曳舟通り	1885
19	"	暗い背景のびんと黄色いレモン	1981~89	3	"	房州白浜	1886~88
20	"	びんとレモン	1983	4	"	あひる	1902~07
21	"	てんとう虫(7枚組)	1984	5	"	樹	"
22	"	野	1985	6	"	はたらく婦人	"
23	"	黄色い編み棒	1985~89	7	足立源一郎	下加茂森	1907
24	"	緑のポプラ	"	8	"	あは田	"
25	"	3匹の蝶(15枚組)	1985	9	"	女性コスチューム	1912~25
26	"	カリフォルニア・チェリー	1987	10	"	裸婦	"
27	"	マントリック・ミュージックⅡ (22のさくらんぼ7枚組)	1988	11	田中志奈子	デッサン(棒をもつ裸婦)	1905
28	"	マントリック・ミュージックⅠ (22のさくらんぼ15枚組)	"	12	"	"(神官)	"
29	深沢幸雄	舞踏	1958	13	"	"(大原女)	"
30	"	繫縛	1959	14	"	"(箒をもつ女)	"
31	"	愛憎	1960	15	田中善之助	高台寺	1906
32	"	飛天挽歌	"	16	"	出町	"
33	"	虚空に乱れる	1962	17	鶴田吾郎	自画像	1912
34	"	飛神	"	18	"	女の横顔	1920
35	"	生	"	19	"	済州島にて	1935
36	"	渦状生雲	1965	20	"	裸婦	1947
37	"	洞窟	1966	21	"	網うつ男	"
38	"	旗	"	22	中西利雄	T嬢	1935
39	"	行きずりの人(青)	1968	23	"	帽子をかぶった女	"
40	"	銅版画集 「ボードレール詩集悪の華より」	1972	24	"	マドマーゼルH(A)	1940~43
41	"	星の門	"	25	原勝郎	デッサン(D)	"
42	"	窓	"	26	"	"(G)	"
43	"	胎動(メヒコ)	1975	27	安井曾太郎	デッサン(裸婦)	1907
44	"	ピラミッドの下で	1976	28	"	"	"
45	"	掌の中の影	"	29	"	"	"
46	"	虚空の影	1977	30	"	"	1937
47	"	影の中の恋人	1978	31	"	"(少女)	"
48	"	天空を計る	1979	32	柳敬助	"(アグリッパ)	"
49	"	この遙かな遠い道	"	33	"	"(母子像)	"
50	"	湾頭に開く花	"	34	"	"(腰かける裸婦)	"
51	"	新しき土	1981	35	"	"(ポーズする裸婦)1	"
52	"	異次元よりの使者	"				

常設 収蔵作品展 「房総の染織」「描かれた房総」

多様な素材と技法による斬新な意匠に彩られた染織は、生活の中に深く浸透し、私たちの美意識にも大きな影響を与えてきた。房総では、館山の唐棧織や綴錦織、外房一帯の万祝や大漁旗など、人々の暮らしに根ざした伝統工芸品としての染織はよく知られているが、美術工芸品としての染織は戦後の作家たちの登場によって本格的に始まった。「房総の染織」では、本県ゆかりの4人の収蔵作家の作品を紹介した。

房総の地は、東京に隣接し、温暖な気候と変化にとんだ景観を持つため多くの画家が訪れた。なかでも館山周辺や、銚子、大原、御宿などでは多くの名作が描かれ、今日もなお格好の写生地となっている。「描かれた房総」では、房総の豊かな自然をはじめ、時代の流れと共に変容した風土や生活を独自の視点で表現した作家たちの日本画、洋画、版画の作品を紹介した。

会 期	「房総の染織」 平成6年11月12日(土)～平成7年1月22日(日) 54日間 「描かれた房総」 平成6年11月26日(土)～平成7年1月22日(日) 42日間
展示点数	「房総の染織」 27点 「描かれた房総」 103点
入場者数	40,930人 (32,269人) ※()内は「描かれた房総」会期中の入場者数

出 品 目 録

「房総の染織」

No.	作 家 名	作 品 名	制作年
<工芸>			
1	青木 滋 芳	池	1942
2	〃	作 品 C	1964
3	〃	染色笠 森 寺 (古 刹)	1969
4	〃	雪	原 1971
5	〃	黒	潮 1977
6	〃	公 園 の 朝	1980
7	上野 斌 郎	苺	畑 1930
8	〃	海	1951
9	〃	う ず	潮
10	〃	女 の	園
11	〃	草	花
12	〃	収	穫
13	〃	朝鮮風俗染色三曲衝立	
14	〃	並	木
15	〃	森の裸婦染色壁掛	
16	〃	林間水浴染色壁掛	
17	深沢 範 子	花 か げ	1970
18	〃	今 日 も 明 日 も	1983
19	〃	シ ニ ョ リ ー ア 回 廊	1990
20	二口志保子	緑 の 頃	1961
21	〃	翔 け る	1964
22	〃	水	面 1967
23	〃	動	1968
24	〃	初	夏 1969
25	〃	紬 織 訪 問 着	1976

No.	作 家 名	作 品 名	制作年
26	二口志保子	紬 織 着 物	
27	〃	花	
「描かれた房総」			
<日本画>			
1	岩 崎 巴 人	波 涛 岩 礁 図	1974
2	加倉井和夫	穀 機	1967
3	酒 井 亜 人	太 海	1954
4	島 田 良 祐	海 近 き 村	〃
5	菅 沢 幸 司	利 根 風 景	
6	田 岡 春 徑	幽	
7	〃	五 百 羅 漢	
8	立 石 秀 春	九 十 九 里	1987
9	田 中 路 人	豊 漁	1982
10	時 田 直 善	夕 風	1954
11	富 取 風 堂	朝 光	1931
12	〃	厩 舎	1938
13	〃	漁 港 の 朝	1950
14	〃	漁 港 の 夕	〃
15	〃	う す れ 陽	1975
16	村 松 乙 彦	菊 人 形	1942
17	峯 岸 魏 山 人	九 十 九 谷	1976
18	吉 岡 堅 二	馬	1937
19	〃	濤	1939
20	若 木 山	安 房 の 海 処 女	1951

No.	作家名	作品名	制作年	No.	作家名	作品名	制作年
21	若木 山	海 女	1952	43	三田 康	冬の犬吠岬	
22	"	波 上 海 女 図	1953	44	柴田 祐作	佐 原 風 景	1980
23	渡辺 学	川 口	1976	45	"	水 郷 静 日	1981
24	"	夜 明 け	"	46	"	白 い 蔵	1988
<洋画>				47	菅谷元三郎	沼 風 景	1935
1	秋 元 恒	高 生 垣 の 家	1976	48	十亀広太郎	犬 吠 埼	
2	浅井 忠	印 旛 沼	1878頃	49	高橋規矩次郎	漁 船	1965
3	"	房 州 白 浜	1886	50	"	滞 船	1970
4	"	"	1887	51	高橋登志夫	絵 画	1983
5	"	房 州 白 浜 村	"	52	竹尾 潮	旧 県 庁 壊	1964
6	"	房 州 乙 浜 村	1888	53	"	破	1970
7	"	房 州 波 太 村	"	54	椿 貞雄	岩	1936
8	"	白 浜 風 景	"	55	"	鋸山から見た房総半島	1948
9	"	房 州 白 浜	1886~88	56	"	犬 吠 埼	"
10	足立源一郎	津 久 波 山 (水郷中州)	1955	57	鶴田 吾郎	中 山 競 馬 場	
11	"	水 郷 初 夏 (十二橋)	"	58	寺田 政明	船 具	1970
12	"	" (中州①)	"	59	"	犬吠灯台の見える外川港	1985
13	"	" (中州②)	"	60	時田 幸彦	犬 吠	1991
14	"	" (中州③)	"	61	富田 通雄	静 か な る 日	1937
15	"	" (中州④)	"	62	"	外 房 鶴 原	1964頃
16	"	" (中州⑤)	"	63	中西 利雄	外 房 風 景	1936
17	"	" (中州水明館より)	"	64	鳩川 誠一	長 屋 門	1932~33
18	石井 柏亭	真 間 の 入 江	1904	65	林 倭衛	太 海	
19	"	冬 の 朝 (行 徳)	1909	66	原 三郎	魔 船	1977
20	石橋 武治	白 鷺 の いる 風 景	1953	67	日野耕之祐	黒 い 雲	1984
21	"	水 辺	1966	68	堀江 正章	耕 地 整 理 図	1901~02頃
22	"	水 温 む	1968	69	前嶋 実	九 十 九 里 初 夏	1988
23	"	水 辺 初 夏		70	峯岸 義一	光 の 中 の 馬	
24	"	水 郷		71	無縁寺心澄	銚 子 大 新 楼 上 に て	
25	今井 謙二	姉 ケ 崎		72	"	医 大 尖 煙 突	
26	氏家 次郎	海 辺	1971	73	"	旧 県 庁 と 噴 水	
27	円城寺 昇	崖	1931	74	森 桂一	新 県 庁	
28	"	杜	1937	75	山谷 鏝一	風	1948
29	"	岩		<版画>			
30	遠藤 健郎	朝 市	1975	1	石井 柏亭	印 旛 沼	1917
31	大久保作次郎	海 水 浴 帰 り	1917	2	"	佐 原	"
32	"	風	1955	3	川瀬 巴水	房 州 太 海	1925
33	大崎 善生	十 二 橋	1950頃	4	"	市 川 の 晩 秋	1930
34	"	初 秋 水 郷	1989				
35	小堀 進	真 夏 の 海 (太海)	1931				
36	"	海 (白浜)	1954				
37	"	逆 光	1974				
38	"	花 と 海	"				
39	小山 周次	銚 子 犬 吠 埼	1961				
40	斎藤 捷夫	海 辺 の 光 景	1983				
41	櫻田 精一	水 門	1951				
42	三田 康	魔 墟	1965				



常設 収蔵作品展 「水彩画の世界」「香取秀真・津田信夫の金工」

水彩画は、幕末から明治の初めにかけて油絵とともに技法が伝わり、早くから学校教育に取り入れられ、身近で親しみやすいものとなっている。「水彩画の世界」では、明治30年代以降、水彩画が美術の主要なジャンルのひとつとして確立して、今日に至るまでの水彩画の流れの中で、その発展に尽力した代表的な作家の作品を紹介した。

近代日本の金工界は、千葉県ゆかりの香取秀真と津田信夫によって二つの大きな潮流が生まれ、今日に至っている。「香取秀真・津田信夫の金工」では、日本や中国の金工作品のもつ伝統的な造形の影響を強く受けた香取の作品と、伝統的な形式にとらわれず、ヨーロッパの新思潮から摂取した自由な発想に基づく津田の作品を紹介した。

会 期	平成7年1月28日(土)～2月26日(日)	26日間
展示点数	「水彩画の世界」	77点
	「香取秀真・津田信夫の金工」	22点
入場者数	17,379人	

出 品 目 録

「水彩画の世界」

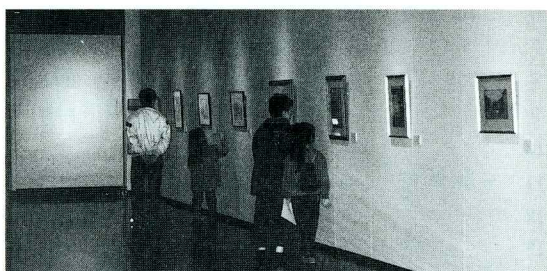
No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年	No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年
<洋画>				24	石川欽一郎	赤 城 淡 煙	
1	三宅克己	小 諸 城 址	1900	25	河合新蔵	竹 林 図	1934頃
2	大下藤次郎	紫 陽 花	1904	26	白滝幾之助	エ ジ プ ト	1922
3	〃	青 梅	〃	27	〃	伊 国 ア シ シ	1923
4	〃	久 々 子 湖	1911	28	〃	伊 国 ナ ポ リ	〃
5	丸山晚霞	長 野 水 内 風 景	1898	29	〃	海	1939
6	小山周次	ば ら	1938	30	水野以文	草 花	1914
7	〃	甲 斐 牧 丘	1946	31	相田直彦	清 浪	
8	〃	花 菖 蒲	1958	32	中 林 儼	冬 の 風 景	1935頃
9	〃	三 宝 柑	1961	33	国枝金三	大 阪 風 景	1909
10	〃	林 檣 と 柿	〃	34	十亀広太郎	道	1921
11	赤城泰舒	赤 屋 根 の 村	1913	35	〃	上 野 公 園 池 畔	1924
12	〃	山 湖	昭和初期	36	〃	女	〃
13	〃	普 陀 正 趣 亭	1936	37	〃	湖 畔 の 樹	
14	〃	多 宝 塔	1936頃	38	安藤信哉	静 物	1977
15	〃	杭 州 葛 嶺	〃	39	〃	〃	1980頃
16	後藤工志	ダ リ ア	1913	40	〃	み な と	
17	石井柏亭	病 児	1904	41	榎本了三	花 籠	1975
18	〃	舟 に 居 る 人	1913	42	中西利雄	南 仏 風 景	1930
19	〃	晩 春 行 楽 図	1938	43	〃	四 人 の 女	1939
20	〃	裏 磐 梯 の 秋	1952	44	富田通雄	静 か な る 日	1937
21	〃	舞 姫	1953	45	〃	外 房 鶴 原	1964頃
22	真野紀太郎	バ ラ	1940	46	不破 章	二 女	1953
23	〃	〃	1939～40	47	〃	白 い 砂	1967
				48	〃	ル ッ セ ル ス ハイム	1974

No.	作家名	作品名	制作年
49	小堀 進	冬 晴 の 果 樹 園	1936
50	〃	ロ ン ド ン の 朝	1964
51	〃	セ ー ヌ 川	1973
52	荒谷直之介	大 島 風 景	1920
53	〃	白 船 入 港(マラガ)	1962
54	〃	那 覇 の 踊 り 子	1967
55	〃	若 い 裸 婦 た ち	1976
56	三橋兄弟治	楽 器 の ある 静 物	1953
57	〃	染 色 を す る 女	1954
58	〃	作 品 II	1967
59	〃	ト レ ド 早 春	1973
60	大崎 善生	十 二 橋	1965
61	〃	溪 流	1988
62	柴田 祐作	佐 原 風 景	1980
63	〃	水 郷 静 日	1981
64	五十嵐光昭	涅槃 の 前 で	1983
65	古賀春江	風 景	
66	石井光楓	タ コ マ	1925
67	〃	ア ー プ ル 市 ・ 場 末	
68	〃	荷 揚 げ	
69	須田国太郎	風 景(漁 船)	
70	鳩川 誠一	荒 川 風 景	1965
71	〃	美 女 と 野 獣	〃
72	無縁寺心澄	医 大 尖 煙 突	
73	〃	旧 県 庁 と 噴 水	
74	今井 謙二	姉 ケ 崎	
75	伊藤 順一	里	1992

No.	作家名	作品名	制作年
76	近藤南海子	グ レ ー の 冬	1992
77	畠 中 陽 一	アルミネーション—光の誘惑—	〃

「香取秀真・津田信夫の金工」

1	香取 秀真	千 本 松 文 釜	1934以前
2	〃	鳩 香 炉	1949
3	〃	菊 文 釜	
4	〃	筋 入 花 瓶	
5	〃	鑄 鉄 茶 釜	
6	〃	銅 製 鼎	
7	〃	銅 製 鰐 口	
8	〃	鳳 凰 文 様 花 瓶	
9	〃	霊 獣 文 大 花 瓶	
10	〃	笑 獅 子 香 炉	
11	〃	燼 壺	
12	津田 信夫	花 瓶	1918
13	〃	煙 草 入	1926頃
14	〃	変 貌 七 色	1933
15	〃	一 點 玲 瓏	1934
16	〃	胡 孫 遊 目	1935
17	〃	雷 吼 一 聲	〃
18	〃	鳳 翔 薰 炉	1937
19	〃	閑 鱗 上 下	1941
20	〃	荒 鷺	1942
21	〃	花 瓶	
22	〃	水 盤	



香取秀真「菊文釜」



津田信夫「鳳翔薰炉」

常設 収蔵作品展「浅井 忠」

「浅井忠」では、浅井の様々な活動に焦点をあてることを目的として、浅井の作品と資料を中心とした「浅井忠の作品と資料」、浅井と関連の深いバルビゾン派の作品を中心とした「バルビゾン派と浅井忠」、浅井忠の弟子たちに焦点をあてた「浅井忠の弟子たち」の3つの部門にわけ紹介した。

会 期 平成7年3月4日(土)～3月26日(日) 20日間
 展示点数 198点
 入場者数 11,373人

出 品 目 録

No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年	No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年
<日本画>				4	浅井 忠	風景(2)	1878頃
1	浅井 忠	大津絵(金太郎)	1907	5	"	女の顔(模写)	1876～78
2	"	"(娘の塩くみ)	"	6	"	沢 入 駅	1884
3	"	"(弁 慶)	"	7	"	溪 流	"
4	"	"(鬼の風呂)	"	8	"	曳 舟 通 り	1885
5	"	"(武 者)	"	9	"	房 州 白 浜	1887
6	"	"(弁慶に釣鐘)	"	10	"	藁 屋 根	1887頃
7	"	韓 信 図	"	11	"	房 州 乙 浜 村	1888
8	"	当世風俗五十番歌合 2 番	"	12	"	白 浜 風 景	"
9	"	" 7 番	"	13	"	磐 梯 山 の 図	"
10	"	" 15 番	"	14	"	"	"
11	"	" 28 番	"	15	"	小 丹 波 村	1893
12	"	餓 鬼 図	1902～07	16	"	平 壤 大 同 江 煉 光 亭	1894
13	"	農 耕 の 図	"	17	"	兵 士	"
14	"	種 ま き の 図	"	18	"	旅 順 戦 後 の 捜 索	1895
15	"	人 物 風 俗 図	"	19	"	金 州 城 南 門 外	1894～95
16	"	盗 賊	"	20	"	貔 子 窩 第 二 軍 司 令 部	"
17	"	貼 交 屏 風	"	21	"	金 州 城 壁 上	"
18	"	もろこしと鳳仙花	1904～07	22	"	母 の 肖 像	1899
19	"	風 俗 図(人足図)	1906～07	23	"	男 性 裸 像	1901
20	"	"(参 詣)	"	24	"	フォンテンブローの夕景	1901頃
21	"	参 詣	"	25	"	西 洋 婦 人	1900～1902
22	"	"	"	26	"	"	"
23	黒沼槐山	柘 榴	1881	27	"	パ リ 公 園	"
24	"	花 鳥 図	"	28	"	農 家	1902
25	田村宗立	白 衣 観 音	1900	29	"	奈 良 郊 外	1903
<洋画>				30	"	京都高等工芸学校の庭	"
1	浅井 忠	印 旛 沼	1878頃	31	"	中 沢 岩 太 像	"
2	"	鍛 冶 橋	"	32	"	欧 州 市 場 風 俗	1903頃
3	"	風 景 (1)	"	33	"	東宮御所壁飾草稿(1)	1905
				34	"	" (2)	"

No.	作家名	作品名	制作年	No.	作家名	作品名	制作年
35	浅井 忠	老 母 像	1906	82	三宅克己	小 諸 城 址	1900
36	〃	婦 人 像	1907	83	安井曾太郎	デ ッ サ ン (裸 婦)	1907
37	〃	帆 船 の 図	1907	84	安井曾太郎	熱 海 附 近	1929
38	〃	千 石 船	1902～07	85	和田英作	塚 本 靖 肖 像	1901
39	〃	大 原 女	〃	86	コ ロ ー	フォンテンブローの風景	1830～35
40	〃	オ ッ ト セ イ の 図	〃	87	〃	フォンテンブローの石切場	1835～40頃
41	〃	花	〃	88	〃	ナポリ近郊の思い出	1860～65
42	〃	玉 川		89	ク ール ベ	眠 る 人	1853
43	〃	石 膏 臨 画		90	〃	雪 の 中 の 小 鹿	1869頃
44	〃	手		91	ジャック	森 の 中	1871
45	足立源一郎	下 加 茂 森	1907	92	ディアズ	森 の 中 の 農 婦	1868
46	〃	浄 土 寺 村 ニ テ	1912～25	93	デュプレ	森 の は ず れ	1860年代
47	〃	カ ー ニ ュ に て	〃	94	〃	嵐 の 前	
48	石井柏亭	冬 の 朝 (行 徳)	1909	95	トロワイヨン	河 辺 の 道	1860～65頃
49	〃	信 州 風 景	1948	96	ドービニー	ヴァルモンドワの小川	1844
50	〃	安 倍 川		97	フォンタネージ	十 月、牧 場 の タ ベ	1860
51	石川欽一郎	赤 城 淡 煙		98	〃	牛 を 追 う 農 婦	1862頃
52	〃	水 辺		99	〃	水 汲 み 場 風 景	1863頃
53	伊藤快彦	林 檣		100	〃	河 辺 の 二 頭 の 牛	1865頃
54	梅原龍三郎	竹 窓 読 書 図	1937	101	〃	森 の 空 地 の 農 婦	〃
55	〃	皇 居	1980	102	〃	木 立	1870頃
56	小川千甕	港		103	〃	池 と 樹 木	1870～72
57	加藤源之助	秋 の 山 (大和初瀬村)	1908	104	〃	羊 飼 い の 少 女	1863～74
58	鹿子木孟郎	風 景		105	〃	神 女 之 図	1878
59	国松桂溪	仏 国 ト ル ド ン ヌ	1923頃	106	〃	風 景 1	
60	黒田重太郎	浴 後	1927	107	〃	〃 2	
61	榊原一広	収 穫	1918	108	ミ レ ー	垣根に沿って草を食む羊	1860～61
62	桜井忠剛	パ ラ		109	ラヴィエ	た そ が れ	1885
63	沢部清五郎	ハドソン河の朝靄	1912	110	〃	モ レ ス テ ル 風 景	1867～95
64	〃	パ リ 風 景	1913	111	〃	〃 (沼)	〃
65	霜鳥之彦	緑 の ス ウ ェ ー タ ー	1923	112	〃	川 辺	〃
66	田中善之助	聖 護 院 の 裏	1907頃	113	ル ソ ー	バルビゾンの農場	1850～55頃
67	〃	山 門					
68	田中志奈子	デッサン (棒をもつ裸体)	1905	<工芸>			
69	〃	デッサン (大 原 女)	〃	1	浅井 忠	絵 皿 (鳳 凰)	1901
70	都鳥英喜	男 の 顔	1908	2	〃	茶 器「猿蟹合戦ノ図」	1902～1907
71	〃	八 瀬 の 秋	1929	3	〃	茶 器	〃
72	〃	洛 北 の 早 春	1934	4	〃	農 家 風 俗 手 塩 皿	〃
73	中林 儼	山 中 湖 附 近		5	〃	花 瓶	〃
74	〃	け し の 花		6	〃	向 付 皿	〃
75	西川 純	保 津 峡		7	〃	茶 托	〃
76	長谷川良雄	高等工芸学校西裏通り	1907	8	〃	イ ン カ 文 湯 呑	〃
77	〃	晩 秋	1909	9	〃	図 案 皿	〃
78	牧野克次	松 林		10	〃	草 花 盆	〃
79	間部時雄	田 園 風 景	1906				
80	〃	田 中 の 牧 場		<研究資料>			
81	松岡 寿	森 と 小 川	1895	1	浅井 忠	草 書 千 文 字	1866頃

No. 作家名 作品名 制作年

2	浅井 忠	謝 恵 連 雪 賦	1866頃
3	"	槐 庭 画 帖	1869頃
4	"	槐 庭 時 代 綴	"
5	"	筑 波 日 記	1879
6	"	A Pictorial Museum of Japanese manners and customs	1884
7	"	従 征 画 稿	1895
8	"	欧州時代スクラップ帳	1900
9	"	欧 州 日 記 別 冊	"
10	"	欧州日記・附巴里日記	"
11	"	当世風俗五十番歌合(雲水他)	1907
12	"	" (ハンター他)	"
13	"	当世風俗五十番歌合	"
14	"	図 案 画 稿 (湊 流)	1902~07
15	"	" (春日野花瓶)	"
16	"	" (モロコシの図)	"
17	"	" (風 俗 図)	"
18	"	" (ダチョウ図)	"
19	"	" (花 木)	"
20	"	" (木かげの女)	"
21	"	" (花 瓶 図)	"
22	"	" (")	"
23	"	" (")	"
24	"	図案画稿(戸 棚 図)	"
25	"	" (柿の実取り)	"
26	"	" (大 津 絵 皿)	"

No. 作家名 作品名 制作年

27	浅井 忠	図案画稿(大 津 絵 皿)	1902~07
28	"	" (")	"
29	"	" (")	"
30	"	" (")	"
31	"	" (")	"
32	"	武 士 の 山 狩 墨 線 画	1905~07
33	"	ミレー「昼寝」の模写	
34	"	投 影 画 法	
35	"	自 筆 絵 葉 書	
36	"	2号スケッチブック	
37	"	3号 "	
38	"	4号 "	
39	"	5号 "	
40	"	6号 "	
41	"	7号 "	
42	黒沼 槐 山	絵 手 本	1869頃
43	塚 本 靖	グ レー の 古 城 址	1901
44	"	グ レー 風 景	"
45	"	ロ ワ ン 河 畔	"
46	"	フォンテンブローの釣人	"
47	"	フォンテンブロー宮殿	"
48	和田 英作	塚 本 靖 宛 絵 葉 書	
49	"	絵 葉 書 (富 士 図)	"
50	"	" (少 女 図)	"



浅井 忠「フォンテンブローの夕景」



浅井 忠「茶 器」

特 別 展

イタリア・謎と神話 —1930年・60年・90年の絵画—

会 期 平成6年5月14日(土)～6月19日(日) 32日間
展示点数 81点
入場者数 7,307人

三千年という長い歴史を持つイタリアは、19世紀末に近代統一国家として生まれ変わり、美術においても新たな展開をみせている。それまでの伝統の継承及び発展、あるいは新しい表現の模索を通して多様な世界を創造している。

本展は、イタリアの20世紀美術を伝統性と革新性という視点でとらえ、時代を概観した。特に、伝統的表現への回帰をみせた1930年前後、さまざまな革新的表現を試みた1960年前後、そして伝統を踏まえつつも新しい表現の探究を示した1990年前後に注目し、キリコ、フォンタナ、カボグロッシ、マンゾーニ等の作品の展覧により、イタリアの20世紀美術がいかに伝統を柔軟に取り入れながら進展し、豊かで新鮮な表現力を獲得していったかを紹介した。



出 品 目 録

No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年	No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年
<1930年>							
1	マッモ・カンピーリ	監 視 の 女 性	1929	22	オットーネ・ロザイ	ピ リ ヤ ー ド	1933
2	〃	自 画 像	1930	23	アルベルト・サヴィーニオ	ベ ー ネ ロ ペ ー	1927
3	カルロ・カッラ	栗 の 製 粉 場	1925	24	〃	海 の 神 々	1929
4	〃	海 辺 の 小 屋	1929	25	シ ピ オ ー ネ	修 道 女 た ち	1933
5	フェリーチェ・カゾラーティ	箏 笛 の 上 の 卵	1920	26	〃	女 性 の 横 顔	1929
6	〃	病 気 の 子 供	1933	27	ジーノ・セヴェリーニ	ジ ャ ン ヌ の 肖 像	1927
7	ジョルジョ・デ・キリコ	形 而 上 的 室 内	1925	28	〃	プルチネッラとアルレキーノ	1934
8	〃	副 闘 牛 士	1933	29	マリオ・シローニ	コ ン ボ ジ シ ョ ン	1932
9	フィリッポ・デ・ピンス	リ ン ゴ と プ ド ウ	1935	30	〃	山	1933
10	〃	パ リ	1931	<1960年>			
11	アントニオ・ドンギ	島の聖バルトロメオ	〃	31	アフロ・パサルデッラ	サ ン ・ デ ィ エ ゴ	1963
12	〃	卓 上 の 果 物 皿	1935	32	〃	白 黒 中 間	2 1960
13	マリオ・マファイ	祈 る 人 た ち	1929	33	カルラ・アッカルディ	大 き な ネ ガ	1955
14	〃	皇 帝 の 凱 旋	1933	34	〃	ピ ン ク ー ピ ン ク	1965
15	ロベルト・メッリ	帽 子 の 人 物	1932	35	アルベルト・ブッリ	栗 色 の 袋 SPI	1956
16	〃	女 の 子	1924	36	〃	袋	〃
17	ジョルジョ・モランディ	静 物	1947	37	ジュゼッペ・カボグロッシ	表 面	3 3 1 1959
18	〃	風景	1942	38	〃	〃	3 9 6 1961
19	ファウスト・ピランデッロ	サンショウウオと女性	1928～30	39	エンリコ・カステッラーニ	無 題	1959～60
20	〃	人 形 の 頭	1934～35	40	〃	表 面	1961
21	オットーネ・ロザイ	パ ッ セ ラ 広 場	1927	41	〃	表 面	n.5 1963

No. 作家名 作品名 制作年

42	ピエロ・ドラーツィオ	擬人 A	1961
43	〃	自然の中で	1962
44	ターノ・フェスタ	ピアノの研究	1963
45	〃	アルノルフィニ夫妻の部分	〃
46	ルチオ・フォンタナ	空間概念 62061	1962
47	〃	〃 65ME6	1965
48	ピエロ・マンゾーニ	属	1956
49	〃	無色	1957
50	〃	〃	1958
51	ガストーネ・ノヴェッリ	解放	1959
52	〃	隠匿の美德	〃
53	アキッレ・ベリッリ	容赦なし	1957
54	〃	社会学的寓話	1961
55	ミンモ・ロテッラ	早かれ遅かれ	〃
56	〃	サーカス	1963
57	マリオ・スキファーノ	コカコーラ	1962
58	〃	〃	〃
59	ジュリオ・トゥルカート	中国蠅	1957
60	〃	網目	1957~58
61	エミリオ・ヴェードヴァ	スペイン、今日1961,N.11	1961
62	〃	スペインへ N.10	1962

<1990年>

63 アルカンジェロ 月が沈む 1993

No. 作家名 作品名 制作年

64	アルカンジェロ	大きな帽子の下の死者の夜を思う	1993
65	ステファノ・アリエンティ	無題	1992
66	ジアンルカ・パロッコ	大気の中の女の子	1992
67	〃	迷宮	1993
68	ドメニコ・ピアンキ	無題	〃
69	〃	〃	〃
70	ルイーダ・カルボニ	金の酸化、ヴェネツィア風の夕暮れ	〃
71	〃	ここに、そしてよそに	〃
72	ブルーノ・チェッコベリ	卵の影に	1985
73	〃	天使が住む	1991
74	ジャンニ・デッシ	中心に	1993
75	〃	清澄なベール	〃
76	アメデオ・マルテガーニ	存在し、隠れ、ちらりと顔を出す	〃
77	〃	消え去り、溶解し、見えなくなる	1994
78	ヌツィオ・ディ・ステファノ	マールキュリー	1990
79	〃	3つの霊	1993
80	シルヴィオ・ヴォルフ	光のアイコン	〃
81	〃	〃	〃

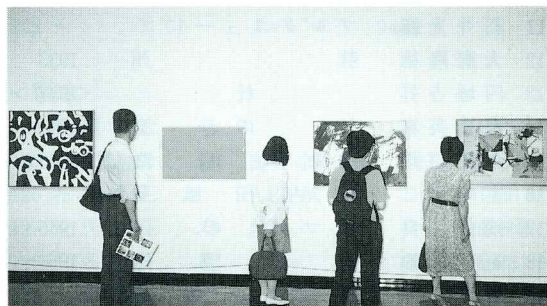
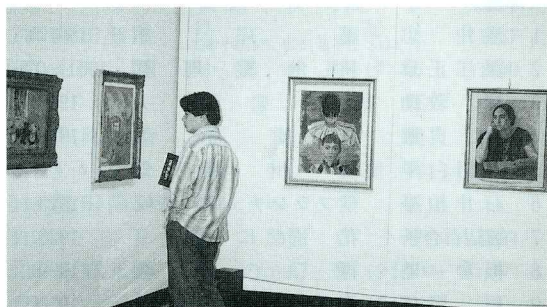
所蔵先機関等

ジョルジョ=イーザ・デ・キリコ財団 No.8

ローマ銀行 No.12

アフロ資料館 No.31,32

伊日現代美術センター (ACIG) No.39,47,48,55



開館20周年記念特別展

房総の美術 ―昨日から明日へ―

第1部／洋画・版画・彫刻 第2部／日本画・工芸・書

会 期 第1部 平成6年7月23日(土)～8月28日(日) 32日間

第2部 平成6年9月3日(土)～10月9日(日) 32日間

展示点数 320点

入場者数 10,125人 (第1部／5,123人 第2部／5,002人)

千葉県立美術館は、昭和49年10月に開館し、平成6年10月をもって満20周年を迎えた。この間、10周年記念展として「浅井忠記念賞展」(第1部／浅井忠作品展、第2部／全国公募展)を開催し、本県出身の近代洋画の先駆者浅井忠の顕彰とその画風の継承に努めた。また、15周年記念展として「房総と近代美術」を開催し、千葉県立美術館収蔵作品の紹介を行った。

今回の20周年記念展では、房総に生まれ、あるいは在住した作家の中から、日本近代美術史上で活躍した作家、美術の振興に重要な役割を果たした作家、また現在我が国の美術界をリードする本県を代表する作家の代表的な作品を館蔵作品にとらわれることなく展示した。

作家301人の作品320点を通じて、近代美術の創設期から今日に至るまでの房総の美術史を回顧し、日本近代美術史上に房総が果たした役割を確認し、明日への展望をさぐる機会となった。

なお、出品作家の選考にあたっては、次の6名の選考委員を委嘱した。

植村鷹千代(美術評論家)、香取忠彦(文化女子大学教授)、田宮文平(書道評論家)、弦田平八郎(美術評論家)
中村傳三郎(美術評論家)、細野正信(美術評論家) (敬称略・50音順)



出品目録

No.	作家名	作品名	制作年	No.	作家名	作品名	制作年
<洋画>				20	鱸利彦	黄衣	
1	浅井忠	藁屋根	1887頃	21	森桂一	ランス大聖堂	1959
2	堀江正章	耕地整理図	1901～02頃	22	鳩川誠一	裸女と仏陀	1960
3	柳敬助	夫人	1910	23	峰岸義一	夕暮れの街	
4	椿貞雄	八重子像	1918	24	山谷鉄一	二人の時間	1960
5	倉田白羊	房州風景	〃	25	内藤 隼	緑衣の婦人像	1961
6	石井柏亭	聖フランチェスコ寺院	1923	26	宮城泰介	平和	1964頃
7	渡辺百合子	花園に遊ぶ	1928	27	大崎善生	十二橋	1965
8	板倉鼎	裸婦	1929	28	荒谷直之介	大原女	1969
9	原勝郎	街灯のある風景	1930	29	秋元松子	静物	〃
10	菅谷元三郎	農婦二人	1931	30	山本不二夫	ハイデルベルグ風景	1970
11	石井光楓	ブルタニューにて	〃	31	高橋規矩治郎	滞船	〃
12	大野隆徳	蘇州	1933	32	秋吉匠	老婆	1974
13	円城寺昇	杜	1937	33	小堀進	逆光	〃
14	都鳥英喜	村の道	1942	34	桜田精一	追憶	〃
15	今関啓司	浅春山路	1943	35	武内和夫	緑蔭三女	〃
16	宮崎丈二	江古田風景		36	安藤信哉	室内	1975
17	浅井真	錦繡の山	1945	37	塩水流功	あがったあがった!	〃
18	石橋武治	筑波望遠	1953	38	天野三郎	水差し	〃
19	無縁寺心澄	医大尖煙突		39	行木正義	作品G	〃

No.	作家名	作品名	制作年	No.	作家名	作品名	制作年
40	遠藤健郎	1945年冬(白いにぎりめし)	1975	87	山倉克己	田園待春	1993
41	石井武夫	D U M M Y	1976	88	五十嵐光昭	献舞	1994
42	秋元恒	高生垣の家	"	<版画>			
43	太田洋三	雨あがりの街	1977	89	加藤八洲	アムス初冬	1978
44	伊牟田経正	悲劇	"	90	"	マインツドーム	1989
45	麻生蓉子	出を待つ	1978	91	松田義之	船大工の家	1932
46	熊谷文利	佳境に入る女祈祷師	"	92	"	船	1934
47	久保木彦	鉄路の信号ボックス	"	93	"	橋	1938
48	佐善明	シーサイドアベニュー	1979	94	上野誠	飛翔	1967
49	渡辺晋	回転木馬	"	95	"	救援を待つ人々	1973
50	糸田芳雄	縄文回顧	1980	96	"	原爆長崎シリーズ原子野G	1975
51	宮島美明	少女	1981	97	星襄一	王の樹	1976
52	柴田祐作	水郷静日	"	98	浜口陽三	パリの屋根	1956
53	小川イチ	櫻樹	1982	99	"	ロビーナのサクランボ(7枚組)	1981
54	神尾吉夫	同類 '82-7	"	100	高木志朗	日本の鬼	1968
55	羽生智樹	鳥舎の中の五羽の鳥	"	101	"	聖女	"
56	松本哲哉	PERSPECTIVE '82	"	102	深沢幸雄	戦慄(トルソ)	1973
57	斎藤捷夫	海辺の風景	1983	103	"	凍れる歩廊(ペーリング海峡)	1978
58	笹岡了一	山西	1984	104	"	憂愁市街(迷路)	1985
59	浜田清	遠い月(記憶)	"	105	富田文雄	森 75-20	1975
60	大隈武夫	行者と人々	1985	106	"	接合 77-25	1977
61	高松健太郎	海辺・星	1986	107	鶴岡洋	T o r s o	1979
62	中村亮一郎	窠	1987	108	"	P a p e r o n P a p e r	1994
63	大矢英雄	午後のアダージェット	"	109	多賀新	双壁(ed40)	1982
64	時田幸彦	舞妓図	"	110	"	バイオリニスト(ed60)	1992
65	森本草介	ベストを着た婦人像	1988	111	小林ドンゲ	散る花	1985
66	安元亮祐	メモワール	"	112	"	薔薇・夜の踊り子	1992
67	松沢茂雄	射光	1989	113	野田哲也	日記: 1987年3月5日、柏市、亀甲台、2-12-4 (b)	1987
68	針生鎮郎	土宙・セレモニー(ハ)	"	114	上野適	小鳥が逃げる	1990
69	早川義孝	赤テントの夜	"	115	"	残像の部屋	"
70	福島和子	仮面シリーズより「追」	"	116	牛玖健治	作品・鏡	1992
71	高森登志夫	ブナの森	1990	117	"	"・発祥	1993
72	上野実	絆	"	118	増田陽一	森の生活	"
73	中山爾郎	古潭錦秋	1991	119	"	植物の窓	1994
74	浅井昭	波は異国もみな同じNo.8	"	120	平野正房	蝶の幻想(94-1)	"
75	西嶋俊親	運河清閑	"	121	"	"(94-2)	"
76	小林数	上総の岩場	"	122	高木隆行	標本 9401	"
77	篠崎輝夫	敦煌遙か	1992	123	"	" 9402	"
78	積田鱒士	R O N D E ・ S ・ N	"	<彫刻>			
79	中山忠彦	MADAM YOSHIE	"	124	長沼守敬	老 夫	1898頃
80	戸田健夫	黎明詠唱	"	125	小倉惣次郎	伊藤博文像	1903~04
81	小島鉄男	道化の刻(偽りの音)	"	126	石井鶴三	風	1936
82	伊藤順一	里	"	127	荒居徳亮	女性マスク	1946頃
83	竹内庸悦	静かな森(A)	1993	128	安西順一	秋晴	1948
84	三橋文雄	山湖	"	129	大川逞一	聖観音	1967
85	竹久秀樹	画架の埋葬	"				
86	斎藤寅彦	H氏の画室	"				

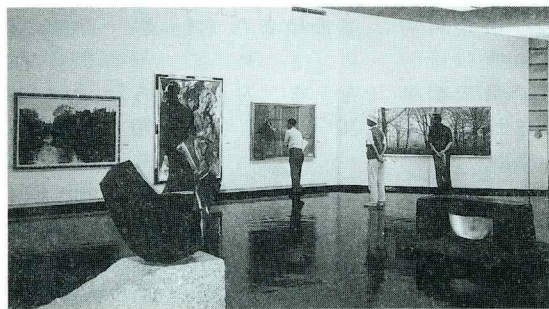
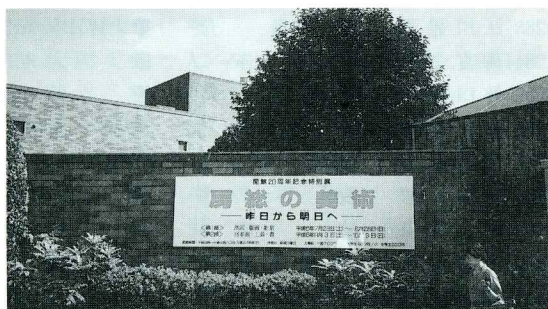
No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年	No.	作 家 名	作 品 名	制 作 年
130	本 田 晶 彦	黎	1967	175	福 井 江 亨	耕	作
131	綿 引 司 郎	遙	1970	176	根 本 樵 谷	藤 下 遊 鯉	
132	久 保 田 淑 通	若 き 悩 み	"	177	根 本 雪 蓬	桜	
133	藤 野 天 光	希 望	1971頃	178	諸 星 成 章	夏 山 溪 谷	
134	鈴 木 啓 子	F E E L I N G - L O V E 白 い ボ エ シ ャ	1973	179	桐 谷 洗 鱗	不 動 明 王 二 童 子 画 像	
135	大 須 賀 力	足 を 組 む	1974	180	斉 藤 卷 石	山 水	1870
136	郡 司 和 男	詩 人 の 肖 像	1976	181	石 井 林 響	桃 源	1913
137	鈴 木 実	存 在 す る 私	"	182	町 田 曲 江	三 大 門	1915
138	長 谷 川 昂	朝	1979	183	速 水 御 舟	遊 魚	1922
139	虎 竹 秀 芳	風 来	1980	184	富 取 風 堂	葛 西 風 景	1937
140	堀 川 恭	聖 な る 作 立	1981	185	松 岡 映 丘	矢 表	"
141	伊 藤 礼 太 郎	夜 叉 神 解 脱	1982	186	磯 田 長 秋	襲 寇 敵 船	1942
142	原 武 典	水 の 中 の 太 陽 (' 8 2)	"	187	吉 田 登 穀	春 深 し	1946
143	鈴 木 武 右 衛 門	飛 べ な い 沈 黙	"	188	古 城 江 観	山	
144	神 野 義 衛	悠	1983	189	酒 井 亜 人	晚 秋	1952
145	堀 豊 之	姉 妹	1984	190	加 藤 栄 三	空	1958
146	梅 原 正 夫	母 と 子	"	191	田 岡 春 徑	溪 谷	1969
147	青 木 三 四 郎	憩 い	"	192	岩 崎 巴 人	闘 う 牛	"
148	平 戸 真	脱 IV	"	193	若 木 山	池 の 春	1970
149	石 橋 亘	廻	1985	194	鈴 木 月 潭	茂 ・ 残 雪	1970頃
150	伊 藤 孝	転	1986	195	秋 葉 長 生	西 の 京	1973
151	浦 野 八 重 子	生 き る と い う こ と	1987	196	東 山 魁 夷	春 雪	"
152	山 本 正 道	旅 の 記 憶 ' 8 9	1989	197	後 藤 純 男	山 門 雨 後	1974
153	土 田 副 正	雲 の よう に 風 の よう に	"	198	島 多 訥 郎	群 魚 と 波 動	1975
154	安 田 侃	吹 雪	"	199	小 野 具 定	漁 村	"
155	関 正 司	F O R T U N A	1990	200	杉 原 元 人	海 花	"
156	長 嶋 栄 次	鳥	"	201	五 十 嵐 幹	華	1976
157	木 村 賢 太 郎	祈 り 5	"	202	渡 辺 学	夜 明 け	"
158	大 国 丈 夫	こ ろ げ て 、 落 ち て	1991	203	戸 田 康 一	風 化	1978
159	鈴 木 徹	碑	"	204	時 田 直 善	耀 庭	1979
160	西 俊 夫	希 望	"	205	大 田 歳	北 海	"
161	小 島 靖 成	時	"	206	横 尾 芳 月	夕 粧	1981
162	吉 野 毅	夏 の 終 わ り ' 9 1	"	207	小 宮 山 俊	沙 羅 の 樹 の 下	"
163	酒 井 良	生 9 1	"	208	大 森 運 夫	時 空 往 還	1983
164	綿 引 道 郎	詩 人 一 生 を 見 つ め て	"	209	松 尾 敏 男	歴 程	1984
165	上 野 弘 道	積 層 — Mutter Mit Kind —	1992	210	西 村 昭 二 郎	新 雪	"
166	島 田 勝 吾	手 の 森 Forest of Hands	"	211	加 倉 井 和 夫	春 朧	1986
167	有 村 辰 夫	二 十 五 の 女	1993	212	渡 辺 阿 以 湖	牡 丹	"
168	木 内 礼 智	翔 舞	"	213	斎 藤 惇	五 台 山 大 白 塔	"
169	中 島 幹 夫	海 の 器	"	214	黒 沢 吉 蔵	古 郷 晚 夏	1988
170	久 保 浩	山 神 の 娘	"	215	関 口 雄 揮	雨 の メ ト ロ 広 場	"
<日本画>				216	関 主 税	湖	1989
171	鈴 木 鷺 湖	農 耕 の 図	1867	217	立 石 春 美	う ら ら	1990
172	川 名 楽 山	天 岩 戸 図		218	石 川 響	い か る が の 灯 火 (法隆寺金堂修正会)	"
173	高 森 碎 巖	仙 境 遊 行 図		219	棚 橋 文 子	ポ ー ズ	"
174	石 井 鼎 湖	立 姿 婦 人 図		220	梅 津 道 雄	秋 冷	1991
				221	田 淵 俊 夫	明 日 香 心 象 橘 寺 遠 望	"

No.	作家名	作品名	制作年	No.	作家名	作品名	制作年
222	林 功	道	1991	263	佐藤錦一	イ コ ン	1986
223	梶田隆一	古城 (ドイツ)	1993	264	中村昌子	月 影	1989
224	立石秀春	九 十 九 里 浜	〃		(七宝)		
<工芸>				256	湊川惣助	七 宝 富 嶽 図 額	
(陶芸)				266	〃	七 宝 秋 草 図 盆	
225	田中穂山	染付松竹梅図建水	1935~44頃		(木工)		
226	宮之原謙	彩地盛蓮葉文壺	1955頃	267	秋山逸生	木 画 箱	1969
227	河村蜻山	長方皿「雨・風・晴」		268	梅田総太郎	拭 漆 櫛 入 隅 盆	1970
228	飯田陶夢	白 磁 大 皿		269	戸島甲喜	胎 河 観 想	1990
229	山本正年	瑞 光		270	中基瑞真	桐 経 箱	1992
230	横山朝陽	牡丹文搔落壺			(竹工)		
231	土肥刀泉	釉彩両耳花瓶	1967頃	271	林尚月斎	鉄 脚 盛 器	1953
232	横山光ノ介	戦 碑	1976	272	中台一司	風 雪	1971
233	三橋英作	象 嵌 花 器 (展)	1984		(ガラス)		
234	井高洋成	火 櫛 耳 付 壺	1986	273	岩城滝治郎	金赤被せカットグラス	1914
235	福田光山	玳皮天目葡萄紋抜絵皿	1989	274	藤田喬平	飾 筥・し だ れ 桜	1985
236	上瀧勝治	葆光布染彩磁大壺	1991	275	田中常男	桜 花 紋 水 指	〃
237	土肥紅絵	小 袖 随 想	1992	276	石井康治	緑 蔭	1988
238	神谷紀雄	鉄絵銅彩秋海棠文長皿	1993	277	河上恭一郎	冬 の 律	1990
239	土肥 満	蹲 踞	〃	278	藤田 潤	印 象	1993
240	美崎光邦	彩 泥 鉢	〃		(皮革工芸)		
(染織)				279	猪俣伊治郎	風 神	1991
241	上野斌郎	蓐 畑	1930	<書>			
242	木村和一	海		280	香川松石	千 字 文 抄	
243	二口志保子	水 面	1967	281	吉岡蒼陰	聖 壽 萬 歳	1928
244	青木滋芳	黒 潮	1977	282	関根薫堂	和 漢 朗 詠・梅 花	1940
245	松原利男	藍形染着物「流水文」	1993	283	江川碧潭	行 書 五 律	
246	明石研一	め ざ め の 刻	〃	284	高宮金陵	山 部 赤 人 歌	
247	深沢範子	花 ま ん だ ら	〃	285	外口静葉	妙 技 入 神	
248	福岡和子	郡 翔	1994	286	原 天外	醉 裏 楽 天 真	
(漆芸)				287	今関修竹	短 歌・ひ さ か た の	
249	佐藤陽雲	彫 漆 飾 箱	1934頃	288	小川瓦木	叙 情	1959
250	増村益城	乾漆波文溜塗盛器	1965	289	中台青陵	杜 甫 詩	1965
251	三村比呂志	想 曲	1971	290	小安花邨	バ イ ロ ン の 言 葉	1966
252	武田武弘	ランボーの詩より「朝」	1975	291	高沢南総	春 風 秋 月	1981
253	佐治ヒロシ	黒 漆 扁 壺	1987	292	高橋蒼峰	鳴 瑟	1982
254	大西長利	乾 漆 花 器「山」	1993	293	浅見喜舟	太 公 有 意 垂 釣	1983
(金工)				294	鈴木方鶴	一 笑 千 山 青	1984
255	香取秀真	霊 獣 文 大 花 瓶		295	小暮青風	漂 泊 の 思 い	1985
256	津田信夫	一 點 玲 瓏	1934	296	中台邱園	廬 綸 詩	1986
257	会田富康	蓋 の ある 青 銅 壺	1965	297	小高映帯	春 夏 秋 冬	〃
258	信田 洋	透 壺	1968	298	千代倉桜舟	宗 左 近 の 詩	1988
259	香取正彦	彫 銀 玉 錯 花 瓶	1973	299	宇津木雀聲	凝 神 著 書	1989
260	小林正利	祈 り (啓 蟄)	1975	300	高木東扇	あ ふ 坂 の 関	1991
261	堀口光彦	日 曜 日 の 雨	1977	301	田岡正堂	串田孫一詩「龍の目覚め」	〃
262	鈴木治平	湿 原 の 詩	1985	302	北田岳洋	唐 詩 (五 言 詩)	1992

No.	作家名	作品名	制作年
303	種谷扇舟	相田みつをの詩	1992
304	金子聰松	孟浩然詩	〃
305	揚石徳司	無意不驚	〃
306	関根薫園	黙如雷	〃
307	宮負丁香	高啓詩	〃
308	鈴木一敬	白孔雀	〃
309	大野虚舟	天靈地氣一騰	〃
310	奥田家山	御遷宮	1993
311	日暮曠岱	邁仁樹徳	〃
312	辻元大雲	祝婚歌	〃
313	吉田天行	露滴壽杯春酒香	〃
314	岩波白鵬	陶淵明詩三首	〃
315	福田丞洲	摩訶般若	〃
316	飯高和子	父の歌を書く	1994
317	浅見錦龍	青山前と後白雲西又東	〃
318	中村象閣	万葉二首	〃
319	石井雙石	林鳥相忘不避人	1951
320	野坂叫星	種谷城南自用印	

所蔵機関等

市川市教育委員会 No.67, 217, 222 岩手県立博物館
 No.124 大網白里町図書室 No.180, 271 神奈川県
 立近代美術館 No.149 (株)犬吠埼観光ホテル
 No.246 (株)大丸東京店 No.240 (株)フジカワ
 画廊 No.53 (株)フジテレビギャラリー No.113
 (株)横井春風洞 No.65 岐阜県美術館 No.190 国
 立科学博物館 No.71 埼玉県立近代美術館 No.5
 滋賀県立近代美術館 No.183 正源寺 No.182
 SUWAガラスの里 No.276 袖ヶ浦市教育委員会
 No.148 千葉県立千葉高等学校 No.12 千葉市教育
 委員会 No.40 千葉市教育センター No.59 千葉市
 役所 No.25 長泉院附属現代彫刻美術館 No.135, -162
 長南町郷土資料館 No.173 東京芸術大学芸術資料館
 No.187, 266 東京国立近代美術館 No.186 東京国
 立博物館 No.265 栃木県立美術館 No.94, 95, 96
 長野県信濃美術館 No.126 成田山書道美術館
 No.280, 281, 282, 283, 285, 286, 287, 311, 320 成
 田山霊光館 No.7, 179 姫路市立美術館 No.185
 三重県立美術館 No.228 山形美術館 No.175 山梨
 県立美術館 No.211 碓山美術館 No.3 (50音順)



企 画 展

第18回千葉県移動美術館

会 場 ① 夷隅町文化会館 ② 成田国際文化会館
 会 期 ① 平成6年11月18日(金)～11月30日(水) 10日間
 ② “ 12月3日(土)～12月18日(日) 14日間
 展示点数 ① 47点 ② 47点
 入場者数 ① 861人 ② 1,410人

館収蔵作品を中心に、県展受賞作品の一部を加えて移動美術館を行い、身近で美術品を鑑賞することのできる機会を提供した。

出 品 目 録

「館収蔵作品」

No. 作 家 名 作 品 名 制作年

<日本画>

1	富取風堂	葛西風景	1937
2	東山魁夷	門	1952
3	若木山	早春	1969
4	渡辺阿以湖	牡丹	1986
5	渡辺学	下総の海女	1982頃
6	松尾敏男	原野	1971

<洋画>

1	浅井忠	小丹波村	1893
2	石井柏亭	晩春行楽図	1938
3	大久保次郎	丘上の鐘楼	
4	須田国太郎	風景(漁村)	
5	石井光楓	ブルタニューにて	1931
6	椿貞雄	鴨図	1955頃
7	安藤信哉	二人	1957
8	中西利雄	曇り日の離宮と駅	1947
9	不破章	麗日新宿御園	1977
10	小堀進	南欧の丘	1962
11	“	風	1970
12	篠崎輝夫	絵馬による	1976
13	羽生智樹	動く気配の鳥	1981

<彫刻>

1	高村光太郎	手	1918
2	鈴木章	七面鳥	1932
3	長谷川昂	朝	1979
4	堀川恭	丸いフォルム	1975
5	原武典	水の中の太陽'82	1982
6	島田勝吾	少女と鳥	1981～82

No. 作 家 名 作 品 名 制作年

7 関正司 I R O N L A D Y 1982

<工芸>

1	津田信夫	唐獅子置物	1946
2	土肥刀泉	釉彩両耳花瓶	1967頃
3	中基瑞真	桐菱形塗輪花盛器	
4	藤田喬平	飾篭・しだれ櫻	1985
5	宮田宏平	生命の透間風	1982
6	鈴木治平	湿原の詩	1985
7	神谷紀雄	鉄絵銅彩葡萄紋大鉢	1987

<版画>

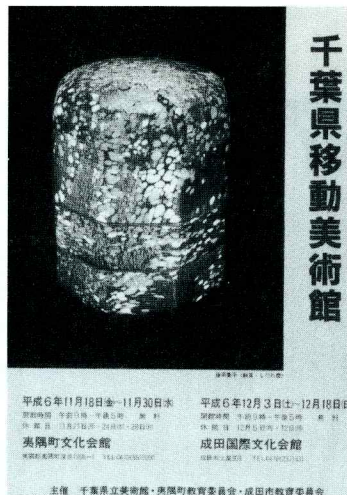
1	永瀬義郎	もの想う天使	1973
2	浜口陽三	うさぎ	1955
3	星襄一	大樹	1977
4	牛玖健治	作品発芽	1978
5	深沢幸雄	誇り高き男	1992
6	池田満寿夫	マーガレットの庭	1970

<書>

1	浅見喜舟	ト	居	1980
2	種谷扇舟	故郷の山河		1971
3	鈴木方鶴	万	昌	1973
4	浅見錦龍	古泉千櫓の歌		1976

「第46回県展出品作品」

1	平井 熙	待つ(日本画・県展賞)	1994
2	小平るり子	古都の橋(洋画・県展賞)	“
3	古瀬利治	遙かに(工芸・県展賞)	“
4	内田玉英	山居雑詩(書・県展賞)	“



普及事業

美術講演会は、展覧会に併せ4回開催した。

また、特別展「房総の美術」会期中に、ミュージアムコンサート「こころの歌・ふるさとの歌」を開催した。

実技講座は、日本画、洋画、彫刻（石彫）、工芸（陶芸、金工）、書芸、版画の7種7講座（延67日）を開催した。

図書は、123冊収集した。現在4,527冊を収蔵し、情報資料室に於いて県民の利用に供している。

刊行物については展覧会に併せた図書、チラシ、ポスター、図録、更に館報2回、年報、事業案内などを刊行した。

そのほか、友の会事業による実技講座3種11講座（延62日）、美術鑑賞の旅等をはじめ、博物館実習生の受け入れ（11大学17人）などに協力した。

教育普及

美術講演会

美術に対する関心や理解を深める機会として、展覧会に併せて美術講演会を実施した。各講師ともスライドを用いて講演された。

特別展「イタリア・謎と神話」では、5月28日に美術評論家の井関正昭氏が、1930年代以降のイタリアの絵画・彫刻の変遷と、現代美術に大きな影響を与えた未来派や形而上絵画について語られた。

特別展「房総の美術」（第1部）では、7月30日に洋画家で千葉県美術会理事長の篠崎輝夫氏が房総を好んで訪れた著名な画家や、房総に生まれ、あるいは定住した洋画家の作品を紹介し、篠崎氏と交遊の深かった作家のエピソードなども加え、日本近代美術の流れの中での房総の位置づけを考察された。

特別展「房総の美術」（第2部）では、9月10日に書道評論家の田宮文平氏が明治以降から現代までの流れのなかで、房総の書家の傾向や作風の特徴について語られた。

常設収蔵作品展「香取秀真・津田信夫の金工」では、2月4日に香取秀真の孫であり、文化女子大学教授の香取忠彦氏が近代金工史に重要な役割を果たした香取秀真の業績について、津田信夫の作品と比較して語られた。さらに歌人、研究家としての豊かな交遊関係や、親子の合作による梵鐘制作のエピソードなどを紹介された。



No.	期 日	演 題	講 師	聴講者数
1	5月28日(土) 2時～4時	イタリアの近代美術の特色	井関正昭 (美術評論家)	117人
2	7月30日(土) 2時～4時	房総と画家	篠崎輝夫 (千葉県美術会 理事長・日展会員)	287人
3	9月10日(土) 2時～4時	房総の書と現代	田宮文平 (書道評論家)	192人
4	2月4日(土) 2時～4時	近代金工史における香取秀真の業績	香取忠彦 (文化女子大学教授)	67人

ミュージアムコンサート

特別展「房総の美術」の開催に併せ、「こころの歌・ふるさとの歌」と題して、9月24日、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉のメンバーを中心にコンサートを行った。

曲目は次の通り。

<演奏曲目>

早春、おぼろ月夜、花、夏の思い出、我は海の子、
里の秋、荒城の月、待ちぼうけ、小さい秋みつけた、
ペチカ、宵待草、蛙の笛、月の砂漠、証城寺の狸囃子、
ゆりかご、この道、浜辺の歌

<演奏者・司会>

羽田裕美子 (ソプラノ) / 松浦 健 (テノール) /
中里かほり (ソプラノ・司会) / 多賀ひとみ (ピアノ)
／本庄篤子、鈴岡淳子 (ヴァイオリン) / 宇佐美久恵 (ヴィオラ) / 斎藤章一 (チェロ) / 高西康夫 (コントラバス) / 黒田育子 (フルート)



実技講座

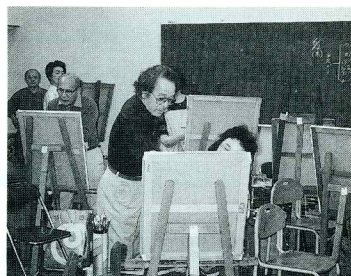
(1) 洋画講座

期 日 平成6年5月24日(火)・25日(水)・26日(木)・28日(土)・29日(日)・
31日(火)・6月1日(水)・2日(木)・3日(金)
(9日間／うち講師指導日数は6日間)

講 師 松沢 茂雄氏

受講者数 33人

内 容 着衣と裸婦をテーマに、デッサン、構図、着彩などの基礎的技法を学んだのち、より幅広い表現について学習した。



(2) 日本画講座

期 日 平成6年6月14日(火)・15日(水)・16日(木)・18日(土)・
19日(日)・21日(火)・22日(水)・24日(金)・25日(土)・
26日(日)・28日(火)・29日(水)
(12日間／うち講師指導日数は7日間)

講 師 斎藤 惇氏

受講者数 21人

内 容 花・果物・人物等のモチーフにより制作した。岩絵の具、にかわ、筆、紙等の材料・道具の取り扱い方など基礎的な学習をした後、彩色の技法を中心に学習した。



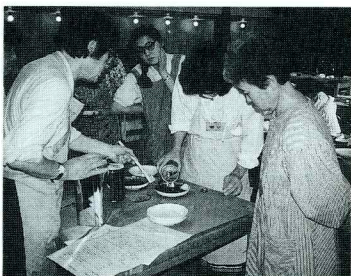
(3) 版画講座

期 日 平成6年7月5日(火)・6日(水)・8日(金)・9日(土)・
10日(日)・12日(火)・13日(水)・14日(木)・16日(土)・
17日(日)・19日(火)・20日(水)
(12日間／うち講師指導日数は7日間)

講 師 増田 陽一氏

受講者数 23人

内 容 銅板・亜鉛板を素材に、凹版画の制作を行った。版画の材料や、用具の取り扱い方、エッチングやアクワチントなどの各種技法や刷りの技術について学習した。



(4) 彫刻講座

期 日 平成6年9月1日(木)・2日(金)・3日(土)・6(火)・
7日(水)・8日(木)・9日(金)・10日(土)・13日(火)・
14日(水)

(10日間／うち講師指導日数は6日間)

講 師 石橋 亘氏

受講者数 14人

内 容 白御影石を素材に、動物や人物、抽象形態など自由に制作した。
石のみやドリル等各種工具類の取扱い方を学び、彫刻や研磨な
ど石の幅広い表現方法を学習した。



(5) 陶芸講座

期 日 平成6年10月18日(火)・19日(水)・20日(木)・21日(金)・
11月22(火)・29日(火)・12月7日(水)

(7日間／うち講師指導日数は5日間)

講 師 鎗田 和乎氏

受講者数 38人

内 容 信楽土を素材として、組食器をテーマに制作した。掻き落とし、
象嵌のどの技法をはじめ、粘土、ろくろ 窯詰め 釉薬などに
ついて学習した。



(6) 書芸講座

期 日 平成6年11月9日(水)・10日(木)・11日(金)

(3日間／うち講師指導日数は3日間)

講 師 中村 象閣氏

受講者数 23人

内 容 漢字、かな等の臨書を通して、書の歴史、書の味わい方や様々
な表現方法について学習した。



(7) 金工講座

期 日 平成7年1月18日(水)・19日(木)・20日(金)・21日(土)・
24日(火)・25日(水)・26日(木)・27日(金)・28日(土)・
31日(火)・2月1日(水)・2日(木)

(12日間／うち講師指導日数は7日間)

講 師 小林 正利氏

受講者数 18人

内 容 鳥をテーマに、銅板レリーフの制作を通し、鍛金や彫金の基礎
的技法を学び、さらに、より幅広い表現について学習した。



情報資料室

毎週火～金曜日（祝日・休館日を除く）12時30分～4時30分に開室し、県民の方々の美術情報資料（図書、雑誌、図録、新聞等）の利用に供した。また、特別展や企画展の開催に伴い、展覧会への一層の興味と理解を深めていただくため、関係図書類のコーナーを設けた。さらに、各地の展覧会やイベントについて、資料室前のロビー等でポスター、チラシ、ポストカード、情報誌などにより美術情報を提供した。

なお、6年度の収蔵図書については71冊を購入、52冊の寄贈を受け、美術情報資料の充実を図った。



分類別図書数

(平成7年3月31日現在)

区 分	平成5年度まで	平成6年度	計
美術総記	1,340	32	1,372
絵画	1,286	47	1,333
彫刻	214	9	223
工芸	33	16	349
書	146	4	150
版画	113	5	118
デザイン・建築	62	1	63
写真・映像	169	0	169
その他	45	0	45
雑誌(合冊・復刻)	343	3	346
一般図書	353	6	359
合計	4,404	123	4,527

区分	平成5年度まで	平成6年度	計
購入図書	2,433	71	2,504
寄贈図書	1,971	52	2,023
合計	4,404	123	4,527

(展覧会図録を除く)

刊行物一覧

名 称	規格	頁数	発行部数
千葉県立美術館報 Vol.21 No.1-2	B5	6	各2,000
平成5年度千葉県立美術館年報	B5	55	1,000
常設収蔵作品展目録 (1)	B5	4	1,000
(2)		1	3,000
(3)		4	3,000
(4)		4	3,000
(5)		4	3,000
(6)		4	2,000
特別展「イタリア・謎と神話」図録	A4	221	1,000
ちらし	B5	1	15,000
ポスター	B2	1	1,500
特別展「房総の美術」図録	A4	224	2,000
ちらし	B5	2	30,000
ポスター	B2	1	1,500
車内吊ポスター	B3	1	2,300
リーフレット(2種)	B5	4	各5,000
収蔵品目録	B5	122	1,500
平成7年度事業案内	A4変形	3折	20,000

活動協力

千葉県立美術館友の会

1. 目的
“みる・かたる・つくる”という美術館活動に積極的に協力し、楽しい雰囲気のなかで、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深める。
2. 組織
(1)会員数 個人会員 638人 賛助会員 2人
(2)役員 会長 1人 副会長 3人 監事 2人 理事 若干名
3. 事業
(1)友の会だより「しおさい」の発行、年4回。各1,000部印刷し、会員に配付した。
(2)第19回葉美会展の開催 会期／平成6年8月30日（火）～9月4日（日）
出品者 41名 展示点数 70点
(3)秋の美術鑑賞の旅 美術品や文化財を訪ねながら、親睦も深めるために実施した。
①日時 10月4日（火）
②行先 池上本門寺・大田区立龍子記念館・日本民芸館
・台東区立朝倉彫塑館・弥生美術館・竹久夢二美術館
③参加者数 52人
(4)館事業への協力
館に協力して、特別展等の図録販売・実技講座の開催のほか、講演会など県民アトリエ事業に積極的に参加した。
(5)その他
テレホンカード・絵葉書・額縁・額絵・図書等の販売
4. 平成6年度友の会実技講座

講座名	期 日	日数	受講者数	講師
洋画入門講座(1)	5月17・18・19・20・21・22日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	6	32	熊谷 文利
〃 (2)	6月7・8・9・10・11・12日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	〃	〃	渡辺 晋
〃 (3)	8月2・3・4・5・6・7日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	〃	38	根岸 茂行
〃 (4)	8月23・24・25・26・27・28日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	〃	31	戸田 健夫
〃 (5)	10月25・26・27・28・29・30日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	〃	42	松沢 茂雄
〃 (6)	12月6・7・8・9・10・11日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	〃	31	関 和弥
〃 (7)	1月31・2月1・2・3・4・5日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	〃	29	〃
〃 (8)	3月7・8・9・10・11・12日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	〃	38	根岸 茂行
日本画入門講座	11月15・16・17・18・19・20日 (火)(水)(木)(金)(土)(日)	6	22	斎藤 惇
デッサン入門講座(1)	7月28・29・30・31日 (木)(金)(土)(日)	4	31	御園 正男
〃 (2)	3月1・2・3・4日 (水)(木)(金)(土)	〃	36	根岸 茂行

博物館実習

各大学の依頼により学芸員資格取得希望の学生を下記のとおり受け入れた。

平成6年7月25日～7月30日

跡見学園女子大学1人、学習院大学3人、金沢美術工芸大学1人、実践女子大学1人、女子美術大学3人、千葉大学2人、トキワ松女子短期大学1人、東京学芸大学1人、日本女子大学1人、日本大学1人、武蔵野美術大学2人

(計17人)

その他

平成6年5月26日～5月31日 読売新聞に特別展「イタリア・謎と神話」開催に伴う原稿提供。3回連載。

7月28日～10月6日 千葉日報に特別展「房総の美術」開催に伴う原稿提供。10回連載。

貸出資料一覧

作家名	作品名	出陳展覧会名	会期・展示会場	貸出先
浅井 忠	貔子窩第二軍司令部 平壤大同江煉光亭	「百年前の表現」展	6.4.23～5.22 西宮市大谷記念美術館	西 宮 市 大谷記念美術館
石井林響 吉岡堅二 後藤純男 渡辺 学 小野具定	漁 濤 山 門 雨 後 夜 漁 村	「日本画の装飾美 金銀の煌き」展	6.4.23～5.22 練馬区立美術館	練馬区立美術館
中西利雄	人 物 トリエール ・シュール・セヌ	「藤島武二と 新制作派のパイオニア」展	6.7.23～8.21 秋田県総合生活文化会館	秋田県総合生活 文 化 会 館
椿 貞雄	自 画 像	「日本の自画像」展	6.9.13～10.16 三鷹市美術ギャラリー	三鷹市美術ギャラリー
田中善之助	パ リ の 女	「1920年代ーパリの日本人画家」展	6.9.9～10.10 岡山県立美術館	岡山県立美術館
椿 貞雄	八 重 子 像 横掘角次郎兄像 岩	「河野通勢とその周辺」展	6.9.15～10.10 長野県信濃美術館	長野県信濃美術館
クールベ ドービニー	雪 の 中 の 小 鹿 ヴァルモンドワの小川	「アドベンチャー冒険の美術」展	6.11.19～12.18 滋賀県立近代美術館	滋賀県立近代美術館
小野具定	遠 く な っ た 海 漁 村	「小野具定」展	7.2.11～3.25 練馬区立美術館	練馬区立美術館

調査・収集事業

展覧会企画や資料収集等に関連して、調査研究を進めた。

資料収集については、日本画2点、洋画14点、彫刻1点、工芸29点、書84点、版画1点、研究資料1点を新たに収蔵した。この中には、篆刻家石井雙石の作品82点をはじめ、金工家香取正彦の作品7点などが含まれている。

収蔵資料

<日本画>

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	島田良祐	層雲峽(二滝)	1968	紙・着彩	215.0×170.0	寄附
2	吉田登穀	玉堂富貴		〃	71.8×73.7	購入

<洋画>

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	秋元松子	静物	1969	キャンバス・油彩	118.3×130.3	寄附
2	秋吉匠	老婆	1974	〃	162.1×130.3	〃
3	浅井忠	橋(図案)		紙・水彩	15.5×23.2	購入
4	〃	にわとり(図案)		〃	〃	〃
5	石井柏亭	或尼僧	1942	キャンバス・油彩	44.1×36.6	寄附
6	小川イチ	春のおわり	1991	〃	112.1×145.5	〃
7	河上左京	静物	大正末—昭和初年頃	紙・水彩	28.2×39.7	購入
8	高松健太郎	海辺・星	1986	キャンバス・油彩	227.3×162.1	寄附
9	武内和夫	緑蔭三女	1974	〃	165.5×112.1	〃
10	西嶋俊親	運河清閑	1991	〃	112.0×162.0	〃
11	丸山晩霞	初夏	明治末年頃	紙・水彩	32.9×37.5	購入
12	三上義人	風景	1954	キャンバス・油彩	181.8×227.3	寄附
13	三宅克己	一口—マ	1920	紙・水彩	33.0×49.8	購入
14	〃	駿州三嶋在の緑蔭	1947	〃	31.5×40.3	〃

<彫刻>

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	安田侃	天泉(マケット)	1993	石	36.0×33.0×22.0	保管換

<工芸>

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(高×幅×奥行cm)	受入方法
1	上野斌郎	蓼	1930	染色	縦210.0×横105.0	寄附
2	〃	林間水浴		〃	縦151.2×横85.0	〃
3	〃	女の園		〃	縦182.5×横119.8	〃
4	〃	収穫		〃	縦120.8×横202.0	〃
5	〃	森の裸婦		〃	縦217.5×横126.0	〃
6	〃	うず潮		屏風・染色	縦164.0×横155.0	〃
7	〃	草花		〃	縦159.5×横145.0	〃
8	〃	海	1951	〃	縦161.0×横145.0	〃
9	〃	並木		〃	縦178.0×横151.0	〃
10	〃	朝鮮風俗染色三曲衝立		鍍金	縦151.3×横124.5	〃
11	香取秀真	鳥銅鳳凰香炉	1912	〃	15.3×7.8×17.3	購入
12	〃	馬鐸		〃	14.3×7.7×4.2	〃
13	〃	美々豆久香爐		〃	17.8×8.6×11.4	〃
14	香取正彦	金銅童形聖徳太子像	1969	〃	39.9×14.0×15.8	〃
15	〃	鍍銅四神文四方花瓶	1952	〃	高39.0×径16.8	〃
16	〃	臘銀黄銅鍍分六方口花瓶		〃	高21.5×径25.0	〃
17	〃	玉装花瓶	1975	〃	高24.0×径15.0	〃

<工 芸>

番号	作 家 名	作 品 名	制 作 年	材 質 ・ 形 状	寸法(高×幅×奥行) cm	受入方法
18	香 取 正 彦	か ら か ね 水 注	1964	鋳 金	高21.0×径23.0	購 入
19	〃	銅 花 瓶		〃	高26.8×径12.9	〃
20	〃	鋳 銅 花 瓶		〃	高19.4×径11.6	〃
21	津 田 信 夫	天 燈 鬼 像		〃	37.5×21.5×13.5	〃
22	〃	竜 燈 鬼 像		〃	42.5×14.5×10.0	〃
23	〃	達 磨 大 師 坐 像		〃	27.0×24.0×20.0	〃
24	土 肥 紅 繪	小 袖 随 想	1992	陶 芸	75.0×43.0×15.0(2体)	〃
25	土 肥 満	蹲 踞	1993	〃	51.0×41.0×31.0	〃
26	深 澤 範 子	花 か げ	1970	染 色	縦122.0×横116.8	寄 附
27	〃	今 日 も 明 日 も	1983	〃	縦67.5×横154.0	〃
28	〃	シ ニ ョ リ ー ア 回 廊	1990	〃	縦155.5×横96.0	〃
29	宮 之 原 謙	彩 盛 百 合 文 壺	1974	陶 芸	高28.5×径27.7	購 入

< 書 >

番号	作 家 名	作 品 名	制 作 年	材 質 ・ 形 状	寸法(縦×横)cm	受入方法
1 82	石 井 雙 石	印材54点・印影14点 ・刻字6点・書8点	1915～70	石, 木, 紙 (軸, 額, 和本)		購 入
83	金 子 聰 松	孟 浩 然 詩	1992	屏風・紙・墨	180.0××342.0	寄 附
84	福 田 丞 洲	摩 訶 般 若	1993	〃	121.0×121.0	〃

<版 画>

番号	作 家 名	作 品 名	制 作 年	材 質 ・ 形 状	寸法(縦×横) cm	受入方法
1	浜 口 陽 三	貝	1960	紙 ・ 銅 版	30.0×45.0	購 入

<研究資料>

番号	作 家 名	作 品 名	制 作 年	材 質 ・ 形 状	寸法(縦×横) cm	受入方法
1	岩 崎 巴 人	流水と河童遊泳戯画		紙 ・ 着 彩	44.8×55.0	寄 附

収蔵資料数一覧

(平成7年3月31日現在)

種別 \ 番号	購 入	寄 附	保 管 換	合 計
日 本 画	105	133	25	263
洋 画	323	373	40	736
彫 刻	76	25	11	112
工 芸	122	99	10	231
書	109	61	14	184
版 画	149	49	5	203
合 計	884	740	105	1,729
研 究 資 料	243	1,216	53	1,512

管 理 運 営

本館では県民のための開かれた明るい美術館をめざし「みる・かたる・つくる」をモットーとして、総合的、かつ動的な美の広場を目標として展示・普及活動を行っている。

協議会では、美術館の運営について協議した。

運営方針

- 県民のための美術館として、明るい親しまれる美術館。
- 学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。
- 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術館。
- 房総の地にかかわりのある美術家の作品と、関係資料の収集と研究をめざす美術館。
- 美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、みる・かたる・つくる活動を総合的に展開する美術館。

職 員

館 長 木 村 卓
副 館 長 小 池 賢 博
副 館 長 桐 谷 正 義
兼庶務課長

庶 務 課

主 任 主 事(派) 大 堀 昭 一
〃 (〃) 積 田 秀 樹
主 事(派) 川 内 啓 子
主任用務員(派) 長 島 則 子

普 及 課

普 及 課 長 藤 川 正 司
研 究 員(派) 津 田 昇
〃 (〃) 濱 田 芳 久
〃 (〃) 金 田 雅 成
主 任 技 師(〃) 相 川 順 子

学 芸 課

学 芸 課 長 前 川 公 秀
研 究 員(派) 高 橋 正 夫
主 任 技 師(〃) 幅 大
技 師(〃) 中 松 満 始
〃 (〃) 加 瀬 綾 子
〃 (〃) 三 浦 拓 郎

県立美術館協議会委員

氏 名	役 職	氏 名	役 職
池 田 敏 男 (6.7.1～)	千葉県教育研究会造形部会長	新 城 瑠 璃	ネスコ(株)相談役 (千葉県立美術館友の会副会長)
石 崎 朋 夫	千葉県経営者協会専務理事	長 谷 川 昂	千葉県美術会長
市 原 恒 雄 (～6.6.30)	千葉県教育研究会造形部会長	藤 井 チ ズ 子	共立女子大学文芸学部非常勤講師
岩 崎 吉 一 (～6.6.13)	東京国立近代美術館次長	山 下 頼 充	日本放送協会千葉放送局長
垣 畑 利 光	千葉県高等学校教育研究会美術工芸部会長	若 桑 み どり	千葉大学文学部教授
齋 藤 志 貴 雄	前千葉県立千葉東高等学校長		

予算概要 (当初)

(単位：千円)

事 業 名		予 算 費	事 業 概 要
運 営 費	展 示 事 業 費	44,942	特別展 2、企画展 1、常設収蔵作品展
	普 及 事 業 費	5,157	実技講座、講演会の実施等、館報・年報・事業案内・収蔵品目録等の発行
	調 査 研 究 費	418	資料調査
	維 持 管 理 費	155,084	施設管理、設備・機械保守委託、その他運営費
施 設 設 備 費	備 品 購 入 費	49,100	美術資料、美術図書、展示用備品、視聴覚備品、図書備品等
	委 託 費	4,900	作品修復
合 計		259,601	

注) 職員の人件費・財団普及事業費は含まない。

利用状況

入館者数一覧

種別 月	開館 日数	個人			団体						人数合計	備考
		一般成人	大・高生	中・小生	一般成人		大・高生		中・小生			
					人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数		
4	26	8,238	304	787	254	7	179	2	53	2	9,815	
5	26	11,121	607	1,896	245	7	82	2	0	0	13,951	特別展 5/14～6/19 「イタリア・謎と神話」
6	26	9,098	510	2,461	433	11	100	2	296	6	12,898	
7	27	8,553	241	2,067	341	10	43	1	22	1	11,267	特別展 7/23～8/28 「房総の美術」第1部
8	26	8,866	583	2,419	321	6	0	0	58	1	12,247	
9	26	9,507	553	1,843	527	12	183	3	186	4	12,799	特別展 9/3～10/9 「房総の美術」第2部
10	23	18,777	697	4,631	560	17	200	1	59	2	24,924	
11	25	9,875	888	1,108	255	7	285	2	65	1	12,476	
12	22	16,886	287	9,855	197	4	0	0	206	6	27,431	
1	23	10,319	353	1,738	502	17	20	1	0	0	12,932	
2	24	10,674	605	2,282	269	7	40	1	50	1	13,920	
3	23	10,864	446	1,148	268	9	0	0	0	0	12,726	
計	297	132,778	6,074	32,235	4,172	114	1,132	15	995	24	177,386	

開館以来 総開館日数 5,936日 総入館者数 3,469,972人

地域別入館者数

種別 月	開館日数	県内		県外		外国人
		千葉市	その他	東京都	その他	
4	26	4,780	3,757	667	595	16
5	26	6,473	5,949	801	696	32
6	26	6,313	5,596	453	525	11
7	27	5,169	4,964	352	753	29
8	26	4,598	6,789	353	499	8
9	26	5,906	5,947	324	613	9
10	23	13,592	10,177	414	718	23
11	25	4,677	6,649	672	464	14
12	22	5,551	21,019	482	370	9
1	23	5,896	6,006	318	703	9
2	24	5,781	6,945	506	677	11
3	23	6,130	5,375	517	690	14
計	297	74,866	89,173	5,859	7,303	185

展示室利用団体

太字は県芸術フェスティバル事業

No.	展 示 会 名	期 間	作 品 種 別	展示点数
1	第31回全日本総合書道大展覧会	4/5～10	書	1,005
2	第 5 回 千 葉 県 木 彫 会	〃	彫 刻	49
3	第 1 7 回 鳳 聲 会 書 作 展	4/12～17	書	104
4	第 6 3 回 郷 陽 会 展	〃	洋 画	141
5	第 8 回 ガラス絵コクリコ会展	〃	ガ ラ ス 絵	57
6	第34回千葉市アマチュア美術会展	4/19～24	日本画・洋画・書・彫刻・ 版画・工芸・その他	1,228
7	M U S A B I 展	4/26～5/1	日本画・洋画・デザイン・工芸	52
8	第 2 1 回 千 葉 新 協 展	〃	洋 画	105
9	カ ラ ー ダ ス ト 展	〃	〃	69
10	第 2 0 回 記 念 歩 会 彫 刻 展	4/26～5/8	彫 刻	55
11	第 8 回 千 葉 水 彩 展	5/3～8	洋 画	87
12	第 2 5 回 表 美 展	〃	表 装 ・ 額 装 ・ 屏 風	153
13	第 1 4 回 千 葉 美 術 工 芸 展	5/3～15	工 芸	52
14	第 3 9 回 二 科 会 千 葉 支 部 展	5/10～15	洋 画	812
15	第 1 2 回 日 中 友 好 書 道 展	5/17～22	書	2,622
16	第 1 8 回 墨 の 県 展	5/24～29	水 墨 画	198
17	第 4 1 回 千 葉 県 書 道 協 会 展	5/31～6/5	書	440
18	第 2 0 回 貌 展	〃	日本画・洋画・彫刻・工芸・写真	72
19	第 1 9 回 関 東 全 展	6/7～12	日 本 画 ・ 洋 画	186
20	第 2 1 回 千 虹 会 日 本 画 展	〃	日 本 画	37
21	第16回新槐樹社千葉県支部展	6/14～19	洋 画 ・ 彫 刻 ・ 工 芸	45
22	第 1 7 回 千 葉 一 陽 展	〃	洋 画	153

No.	展 示 会 名	期 間	作 品 種 別	展示点数
23	千 葉 幼 児 美 術 展	6/14～19	絵 画	1,760
24	第 2 2 回 水 彩 連 盟 千 葉 支 部 展	6/21～26	洋 画	61
25	千 葉 二 紀 展	〃	〃	79
26	第 9 回 日 本 画 四 季 展	6/21～7/3	日 本 画	67
27	第 3 8 回 千 葉 県 小 中 学 校 書 写 展	6/28～7/3	書	1,470
28	第 1 2 回 〈明日を拓く〉教育美術展	〃	児 童 画	2,500
29	第 1 7 回 精 鋭 展	〃	洋 画	98
30	第 2 6 回 千 葉 市 水 墨 画 同 好 会 連 合 会 展	7/5～17	水 墨 画	441
31	第 8 4 回 習 美 会 初 夏 大 作 展	7/19～24	日本画・洋画・水墨画	167
32	第 2 8 回 漱 雲 会 全 国 書 道 展	〃	書	640
33	第 2 3 回 千 葉 中 美 展	7/26～31	日 本 画 ・ 洋 画	49
34	第 1 5 回 龍 峽 書 道 会 千 葉 展	〃	書	465
35	第 1 0 回 日 本 水 彩 画 会 千 葉 県 支 部 展	〃	洋 画	66
36	第 2 3 回 写 真 千 葉 県 展	8/2～14	写 真	379
37	第 一 美 術 協 会 千 葉 県 支 部 展	8/9～14	洋 画 ・ 工 芸 ・ 彫 刻	118
38	第 2 4 回 い て ふ 会 彫 刻 展	8/9～21	彫 刻	45
39	第 1 4 回 日 本 春 秋 書 院 千 葉 県 書 道 連 盟 展	8/16～21	書	91
40	第 4 回 太 平 洋 美 術 会 千 葉 支 部 展	〃	洋 画 ・ 彫 刻 ・ 工 芸	158
41	第 8 回 白 亜 会 千 葉 支 部 展	〃	洋 画	48
42	第 3 4 回 白 扇 書 道 会 展	8/23～28	書	4,249
43	第 1 9 回 葉 美 会 展	8/30～9/4	日 本 画 ・ 洋 画	70
44	第 2 2 回 千 葉 市 教 職 員 美 術 展	〃	洋画・彫刻・書・その他	187

No.	展 示 会 名	期 間	作 品 種 別	展示点数
45	第 2 4 回 新 構 造 千 葉 支 部 展	8/30～9/4	洋 画 ・ 写 真	125
46	第 1 7 回 千 葉 等 迦 展	9/6～11	洋 画	50
47	第27回千葉県高校芸術祭合同写真展	〃	写 真	374
48	第10回日本書道学会千葉県連展	〃	書	217
49	第32回新世紀美術協会千葉支部展	〃	洋 画	81
50	第 2 6 回 フ ァ ン シ ー 洋 画 展	9/13～18	〃	80
51	第21回文化書道千葉県連合会公募展	〃	書	636
52	第 1 7 回 千 葉 県 写 真 展	9/13～25	写 真	137
53	デザインフェスタCHIBA'94	9/20～25	デ ザ イ ン	82
54	第 4 1 回 千 葉 県 勤 労 者 美 術 展	〃	日本画・洋画・書・写真	252
55	第37回千葉市小中養護学校児童生徒総合展	9/27～10/2	絵画・彫刻・工作・その他	4,500
56	第 5 回 千 葉 県 教 育 芸 術 祭	10/4～10	日本画・洋画・工芸・書・その他	575
57	第14回二科会写真部千葉支部展	〃	写 真	76
58	第 4 6 回 千 葉 県 美 術 展 覧 会	10/15～11/6	日本画・洋画・彫刻・工芸・書	2,523
59	千葉県高校芸術祭美術工芸書道作品展	11/9～20	絵画・彫刻・工芸・書・ デ ザ イ ン ・ そ の 他	2,994
60	千 字 会 書 展	11/22～27	書	101
61	第 2 6 回 千 葉 現 展	〃	洋 画 ・ 工 芸	121
62	ダ ネ ラ 展	〃	工 芸	46
63	第 3 9 回 こ ど も 県 展	11/29～12/11	絵 画	11,634
64	第12回明るい社会づくりポスターコンクール展	12/13～18	ポ ス タ ー	1,200
65	今日 の 美 術 を 考 え る 会 展	12/20～25	立 体 ・ そ の 他	53
66	第 3 0 回 登 龍 社 宮 坂 会 書 作 展	1/5～8	書	409

No.	展 示 会 名	期 間	作 品 種 別	展示点数
67	富 士 百 景 写 真 展	1/10～16	写 真	120
68	千葉市観光絵画と写真コンクール展	1/18～22	洋 画 ・ 写 真	125
69	第 1 2 回 千 葉 県 医 師 会 美 術 展	〃	日 本 画 ・ 洋 画 ・ 工 芸	109
70	第28回千葉県老人クラブ会員作品展	〃	絵 画 ・ 彫 刻 ・ 工 芸 ・ 書 ・ 写 真 ・ そ の 他	328
71	第 2 2 回 千 葉 書 壇 秀 抜 ・ 新 進 展	1/24～29	書	475
72	第36回千葉市小中養護学校児童生徒書写展	〃	〃	1,284
73	群 鴉 書 人 展	1/31～2/5	〃	58
74	第 1 0 回 書 星 選 抜 展	〃	〃	268
75	第 4 7 回 千 葉 県 小 中 高 校 書 初 展	〃	〃	716
76	第 1 回 千 葉 独 立 展	〃	洋 画	52
77	千葉大学教育学部美術科卒業制作展	2/7～12	日本画・洋画・彫刻・デザイン	64
78	第 2 9 回 千 葉 大 学 学 生 書 道 展	〃	書	145
79	幕張北高校書道卒業制作展	〃	〃	93
80	第 2 0 回 千 葉 県 民 写 真 展	〃	写 真	315
81	第 2 0 回 子 ど も 造 形 展	2/14～19	絵画・工芸・デザイン・その他	1,500
82	千葉県建設業協会文化作品展	〃	洋 画 ・ 工 芸 ・ 書 ・ 写 真	136
83	第 6 回 日 本 童 謡 の 書 展	2/21～26	書	3,839
84	和 洋 女 子 大 学 卒 業 展	〃	〃	73
85	第 2 4 回 千 葉 県 大 学 美 術 連 盟 展	〃	日本画・洋画・デザイン・工芸	120
86	第 2 6 回 千 葉 市 民 美 術 展	2/28～3/19	日本画・洋画・彫刻・工芸・ 書 ・ デ ザ イ ン ・ 写 真	1,177
87	第 1 8 回 唱 和 会 書 展	3/23～28	書	91
88	第 4 2 回 書 星 教 育 部 展	〃	〃	943

施設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下煤塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

外壁の打込みタイル—先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、珧器質タイルを型枠代にしてコンクリートを一体に打ち込む構法を用いた。

使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚みにしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通し、2,400mm程度まで積み上げ単管にて固定する。この2,400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に単管を480ピッチに通し固定したが、施行時は、縦方向に単管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m～2.0m/hの速度を目標に行い、ポンプにて打設可能な程度までスランブを下げた。この工程を繰返しタイル壁面を構成していった。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に表われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき、目地からの滲透水を防ぎ満足する状態に仕上がった。

屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性銅等が考えられたが、調査の結果により天然スレートを使用した。

空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海滨に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、中性能フィルター、脱臭フィルター、の3種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給されている。

展示棟はC A V（定風量型）+ V A V（可変風量型）方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常

に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。V A V方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つV A V方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

照明計画

展示壁面は、自然光源と人口光源とにより全体計画されている。

自然光源は展示棟の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収のアクリル拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80,000lx以上、30%の時間が50,000lx以上、50%の時間が25,000lx（平均）以上、90%の時間が5,000lx以上という測定値がありまた水平面照度にしても50,000lx（薄暗）から5,000lx（曇天）の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2枚の電動スクリーン（これは、計算値により鉛直面照度60,000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なった透過率を有する布を使用した）にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による通過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエステル（通過率53.6%）と黒地のジョーゼット（通過率35%）の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに押えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふところに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

<設計及び工事監理者>

大高建築設計事務所

<施工者>

建築：（株）竹中工務店

設備：空調＝東洋熱工業（株）

衛生＝第一管工事（株）

電気＝関東電気工事（株）

備品：天童木工、山口木工、佐々木ブラインド

<都市計画地域指定>

用途地域：準工業地域

<規模・面積>

敷地面積 33,057.87㎡
建築面積 8,777.94㎡
延床面積 10,663.57㎡
展示棟 6,343.02㎡
管理棟 2,818.89㎡
県民アトリエ棟 1,501.66㎡
駐車台数 97台

<工期及び建設経費>

(1) 第1期工事（展示棟）5,194.59㎡
(建築面積5,102.35㎡)

○工期 昭和47年9月20日～昭和49年3月31日

工事費 775,967千円

本体工事 425,230千円
電気設備工事 79,663千円
空調設備工事 166,493千円
給排水衛生設備工事 28,995千円
外溝工事 67,705千円
ガス工事 7,881千円

(2) 第2期工事（管理棟）2,274.60㎡
(建築面積1,089.50㎡)

○工期 昭和50年3月1日～昭和51年2月20日

工事費 453,800千円

本体工事 307,500千円
電気設備工事 30,000千円
空調設備工事 79,000千円
給排水衛生設備工事 19,514千円
外溝工事 17,786千円

(3) 第3期工事（県民アトリエ）1,501.66㎡
(建築面積1,449.34㎡)

○工期 昭和54年3月22日～昭和55年2月29日

工事費 370,000千円

本体工事 265,300千円
電気設備工事 35,000千円
空調設備工事 56,200千円
給排水衛生設備工事 13,500千円

○工期 昭和55年12月25日～昭和56年3月24日

工事費 8,000千円

外構工事 8,000千円

(4) 第4期工事（第8展示室1,148.43㎡
収蔵庫544.29㎡）1,692.72㎡
(建築面積1,136.75㎡)

○工期 昭和62年7月11日～昭和63年8月31日

工事費 747,500千円

本体工事 476,000千円
電気設備工事 81,000千円
空調設備工事 171,000千円

給排水衛生設備工事 19,500千円

総工事費 2,355,267千円

工期別面積一覧

(単位:㎡)

区分	地階	1階	2階	塔屋	合計
第1期	322.80	4,753.03	61.00	57.76	5,194.59
第2期	—	1,185.10	1,089.50	—	2,274.60
第3期	—	1,403.15	98.51	—	1,501.66
第4期	15.46	1,132.97	544.29	—	1,692.72
合計	338.26	8,474.25	1,793.30	57.76	10,663.57

<概要>

建物

【階数】

地下1階，地上2階，塔屋1階建

【高さ】

基礎底：G L－5.00m

高さ：G L＋15.20m

【構造】

主体構造：鉄筋コンクリート造

屋根：鉄骨造

主鋼材：SS41及び高張力鋼

コンクリートの種類

A種・普通コンクリート（基礎・地中梁・1階
スラブ）Fc=210kg/cm²

B種・軽量コンクリート（梁・スラブ用・地上
部）Fc=300kg/cm²

C種・軽量コンクリート（地上部躯体でAB以
外の梁・壁など）Fc=240kg/cm²

【外部仕上げ】

外壁：珪藻質タイル，一部コンクリート打放し

屋根：勾配屋根＝アスファルトルーフィングシート，天
然スレート3枚葺

陸屋根＝アスファルト防水，押えコンクリート，
豆砂利打込み

開口部：オーダーメイド自然発色サッシュ，一部型鋼
グラファイト処理サッシュ

【内部仕上げ】

展示室：床＝ビニールホモジニアスタイル

床＝自然石（北木島御影）円盤摺および本磨
（第7室）置敷きタイルカーペット（第8室）

壁＝石綿珪酸カルシウム，板下地クロス張り，
塗装仕上げ

壁＝コンクリート砕り仕上げ（第7室）

天井＝岩綿吸音板，塗装仕上げ

天井高＝3,240～13,500mm

事務室：床＝ビニールホモジニアスタイル

壁＝プラスター塗装仕上げ

天井＝岩綿吸音板塗装仕上げ

天井高＝3,400mm

収蔵庫：床＝フローリングブロック
壁・天井＝米杉（第1・2室）桐（第3・4室）
天井高＝3,400mm
講堂：床＝置敷カーペット
壁＝マコレ練付け
天井＝クロス張り

第1・第2アトリエ：

床＝ビニールアスベストタイル
壁＝コンクリート打塗装仕上げ
天井＝軟質石綿板

研修室：床＝ビニールアスベストタイル
壁＝クロス張り
天井＝岩綿吸音板

和室：床＝玄晶石水磨き、タタミ、桧家甲板
壁＝京じゅらく塗
天井＝杉柂ベニヤ目透シ、竿縁天井

設備

【電気設備】

受電方式：交流 3相3線式6,000V 50Hz
電話交換方式：64回線デジタル交換機方式

【空調設備】

展示棟＝CAV（定風量型）＋VAV（可変風量型）方式

管理棟＝VAV方式
保管庫＝露点再熱制御方式
県民アトリエ棟＝各室ハンドリング方式
熱源：空気熱源スクリュウ熱回収ヒートポンプ方式
【衛生設備】
給水：ポンプ圧送方式，引込み管径75mm
排水：汚水・雑排水合流方式系統（管径300），雨水系
統（管径300）別，公設本管へ放流

【防災設備】

排煙方式：自然排煙，機械排煙（第1，2，7展示室）
消化方式：屋外・屋内消化栓，不燃性ガス消化設備
（ハロゲン1301）
自家発電：ディーゼル機関直結交流発電機，定格出力
100kVA

火災報知設備：P型1級自動火災報知設備

【その他の設備】

防犯設備：ITVカメラ設備，防犯警報装置
昇降機設備：荷物用エレベーター
規模：容量3,000kg，
カゴ内法＝3,000mm×3,000mm×3,000mm，
速度30m/min

展 示 棟

玄 関 ホ ー ル	102.40m ²
ク ロ ー ク	91.80m ²
倉 庫 A	2.70m ²
〃 B	〃
第 1 展 示 室	437.76m ²
〃 2	400.32m ²
〃 3	469.08m ²
〃 4	403.20m ²
〃 5	824.19m ²
〃 6	330.58m ²
〃 7	566.56m ²
〃 8	864.61m ²
食 堂	119.52m ²
厨 房	36.00m ²
従 業 員 控 室	17.28m ²
食 堂 ホ ー ル	49.20m ²
ミュージアムショップ	12.00m ²
ロ ビ ー	335.52m ²
第 1 休 憩 室	23.04m ²
〃 2	〃
〃 3	〃
便 所 A	30.24m ²
〃 B	23.76m ²

身 障 者 用 便 所	7.92m ²
コ ン ト ロ ー ル 室	20.16m ²
フ ィ ル タ ー 室	28.92m ²
工 作 室	31.00m ²
発 電 機 室	25.00m ²
電 気 室	123.20m ²
ポ ン プ 室	76.80m ²
機 械 室	305.20m ²
機 械 室 (新)	283.82m ²
高 架 水 槽 室	11.46m ²
E.V 機 械 室	27.28m ²
E.V 廻 り	54.56m ²
ダ ク ト ス ペ ー ス	35.68m ²
廊 下 等	123.48m ²

合 計 ① 6,343.02m²

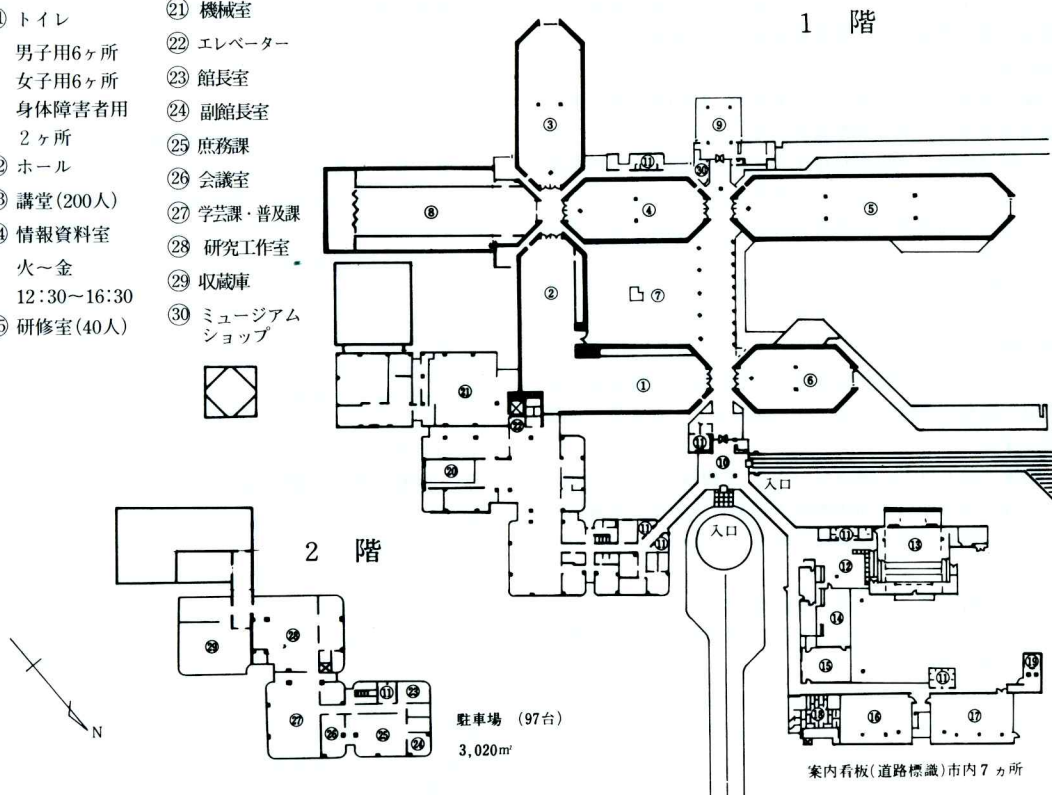
管 理 棟

(1階)	
第 2 会 議 室	22.62m ²
更 衣 室	14.83m ²
医 務 室	21.18m ²
書 庫	22.02m ²
警 備 員 室	43.59m ²
第 1 会 議 室	20.15m ²
倉 庫	7.19m ²
湯 沸 室	5.19m ²
便 所	24.54m ²
宿 直 室	34.20m ²
物 置	9.92m ²
用 務 員 室	31.83m ²
審 査 室・資 料 室	520.68m ²
消 毒 室	31.79m ²
資 料 倉 庫	124.25m ²
荷 解 梱 包 室	52.67m ²
荷 扱 人 室	21.94m ²
機 械 室	51.74m ²
廊 下 等	123.52m ²
小 計	1,183.85m ²

(2階)		便 所	21.50m ²	情報資料室倉庫	4.70m ²
館 長 室	33.27m ²	湯 沸 室 A	3.24m ²	事 務 室	22.76m ²
副 館 長 室	23.42m ²	〃 B	6.87m ²	研 修 室	74.70m ²
第 1 応 接 室	14.67m ²	廊 下 等	60.94m ²	研 修 室 倉 庫	4.23m ²
〃 2 〃	14.55m ²	ダクトスペースその他	3.56m ²	第 1 ア ト リ エ	155.70m ²
庶 務 課 室	112.34m ²	小 計	1,635.04m ²	〃 2 〃	184.31m ²
会議室	43.84m ²	合 計 ②	2,818.89m²	〃 3 〃	95.47m ²
学芸課・普及課室	195.32m ²	*展示室総面積	4,296.30m ²	ア ト リ エ 側 便 所	20.77m ²
学芸相談室	23.91m ²	*収蔵庫総面積	771.50m ²	荷 解 室	25.65m ²
研究工作室	216.49m ²			窯 場	27.17m ²
写真スタジオ	54.30m ²	県民アトリエ		窯 場 倉 庫	6.66m ²
器 材 室	6.74m ²	1F 機 械 室	25.92m ²	ホ ー ル そ の 他	352.67m ²
暗 室	12.19m ²	講 堂 倉 庫	8.64m ²	合 計 ③	1,501.66m²
第 1 収 蔵 室	184.40m ²	講 堂	259.24m ²		
〃 2 〃	42.81m ²	コ ン ト ロ ー ル 室	30.33m ²	総 合 計	10,663.57m²
〃 3 〃	544.29m ²	ホ ー ル 側 便 所	29.97m ²	(①+②+③)	
E.V 前 室	16.39m ²	情 報 資 料 室	172.77m ²		

内 容

- ①～⑧ 展示室
- ⑨ 食堂 (44席)
- ⑩ 玄関ホール
- ⑪ トイレ
 - 男子用6ヶ所
 - 女子用6ヶ所
 - 身体障害者用2ヶ所
- ⑫ ホール
- ⑬ 講堂 (200人)
- ⑭ 情報資料室
- 火～金
12:30～16:30
- ⑮ 研修室 (40人)
- ⑯～⑲ 実技室
- ⑲ 窯場
- ⑳ 搬出入口
- ㉑ 機械室
- ㉒ エレベーター
- ㉓ 館長室
- ㉔ 副館長室
- ㉕ 庶務課
- ㉖ 会議室
- ㉗ 学芸課・普及課
- ㉘ 研究工作室
- ㉙ 収蔵庫
- ㉚ ミュージアムショップ



関係法令等

1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

(目的)

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 館の休館日は、次のとおりとする。

- 一 定期休館日 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）
- 二 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- 三 年始休館日 1月1日から1月4日まで
- 四 年末休館日 12月26日から12月31日まで
- 五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することがある。

(入館の制限)

第4条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- 一 特別展覧会又は現代産業科学館の映像ホールを観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しない者
- 二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳に満たない者
- 三 泥酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

(観覧券等)

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 現代産業科学館の映像ホール観覧券は、別記第2号様式とする。

3. 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第3号様式）により、館長に申し込まなければならない。

(禁止行為)

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

- 一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること。
- 二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。
- 三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食をすること。
- 四 その他、他の入館者の妨げになるような行為をすること。

(損害の賠償)

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償させることがある。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める

附則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条令第6号

(趣旨)

第1条 県が徴収する使用料および手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するもののほか、この条令の定めるところによる。

(使用料の徴収)

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等という。）」の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条令に規定するもののほか、当該財産等を使用しようとする者から使用料を、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

(種類及び額)

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は、別表第一に掲げるとおりとする。

(中略)

(徴収の特例)

第8条の2 県民の日を定める条例（昭和59年千葉県条例第3号）に規定する県民の日その他規則で定める場合において、県の設置した公の施設で、規則で定めるものに係る使用料については、第2条及び第3条の規定にかかわらず、これを徴収しない。

別表第一（抜粋）

財産又は事務の種類	手数料	区分	単位	額
博物館	入館料	特別展覧会	1人1回につき	1,000円以内

(以下省略)

3. 使用料及び手数料規則（抜粋）

昭和31年千葉県規則第29号

(徴収の特例)

第7条の2 条例第8条の2の規程による規則で定めるものは、別表第六のとおりとする。

別表第六（抜粋）

行 事 等	施 設
県民の日（6月15日）。 65歳以上の者、身体障害者（介護者を含む。） 又は精神薄弱者が使用する場合。	博物館

平成7年度主要事業

常設収蔵作品展

本館が収蔵する日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の中から、年間を通じテーマ等に基づき展覧するほか、新たに収蔵した作品を紹介します。

- ・新収蔵作品 4月1日(土)～5月21日(日)
- ・富収風堂の日本画 “
- ・フォンタネージとバルビゾン派 5月27日(土)～7月2日(日)
- ・小堀進・中西利雄・不破章の水彩画 7月8日(土)～9月3日(日)
- ・人物の表現 “
- ・信田洋の金工 “
- ・陶芸の世界 9月9日(土)～10月8日(日)
- ・浜口陽三の版画 11月25日(土)～12月24日(日)
- ・鶴田吾郎の世界 1月5日(金)～2月25日(日)
- ・絵画に表現された風俗 “
- ・彫刻 1月5日(金)～4月14日(日)
- ・堀江正章と旧制千葉中学の弟子たち 1月27日(土)～2月25日(日)
- ・浅井忠 3月2日(土)～3月24日(日)

企画展

高澤南総展 房総の美術家シリーズ(24)

11月11日(土)～12月17日(日)

房総の美術家シリーズは、房総に生まれ、あるいは定住して、近代日本美術界において活躍し、美術振興のために貢献した美術家の再発見と顕彰をめざしています。

今回は、袖ヶ浦市に生まれ、永く県書道界の発展に尽力した書家・高澤南総(1911～1992)に焦点をあて紹介します。

第19回千葉県移動美術館

- ・三芳村農村環境改善センター 11月16日(木)～11月28日(火)
- ・我孫子市民プラザギャラリー 12月1日(金)～12月13日(水)

優れた美術作品を、より多くの県民の方々に鑑賞していただくために、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の各分野から館収蔵作品を中心に巡回展を開催します。

特別展

マイヨール展

5月27日(土)～7月2日(日)

フランスの彫刻家マイヨール(1861-1944)は、はじめ画家を志しますが、視力を害して彫刻制作に転じました。マイヨールは、明快で単純な構成と瑞々しい肉付けによって、ロダンの苦悩に満ちた造形を否定し、女性の裸体像を主たるテーマとして制作し、ギリシャ彫刻のアルカイクの生命とフランスの近代の完成を見事に融合しています。その優れた業績により、ロダンから現代彫刻への移行期を代表する作家として評価されています。

本展では、マイヨール没後50年を記念して、海外所蔵の未公開の作品を中心に、版画、素描を加えて、マイヨールの芸術とその魅力を紹介します。

沖縄の工芸美術

9月9日(土)～10月8日(日)

日本の最南端に位置する沖縄は、黒潮の流れに沿った周辺諸国との海上貿易を通じて、複雑な、しかも独特の美術を形成してきました。特に、南国の太陽のような鮮やかな色彩を持つ「紅型」をはじめとし、琉球王朝の保護のもとで独自の発展を遂げた「朱漆」、また民衆の生活の中から生み出された陶芸など、17世紀後半から今日に至るまで受け継がれてきた多くの工芸品があります。

本展では、沖縄の工芸美術を展示し紹介するとともに、黒潮文化圏の美術として位置付け、その圏内にある房総の文化との関連を考えます。

講演会

展示会に関連し、年4回開催。

実技講座

No.	講座名	開設日時(12:30～16:30)	日数	定員	講師
1	日本画講座	5月16日(火), 17日(水), 18日(木), 20日(土), 21日(日), 23日(火), 24日(水), 25日(木), 27日(土), 28日(日), 30日(火), 31日(水),	12(8)	20	斎藤 惇
2	洋画講座	6月8日(木), 9日(金), 10日(土), 13日(火), 14日(水), 17日(土), 18日(日), 20日(火), 21日(水),	9(6)	30	松沢茂雄
3	版画講座	7月4日(火), 5日(水), 6日(木), 8日(土), 9日(日), 11日(火), 12日(水), 13日(木), 15日(土), 16日(日), 18日(火), 19日(水),	12(8)	20	増田陽一
4	彫刻講座	10月17日(火), 18日(水), 19日(木), 20日(金), 21日(土), 24日(火), 25日(水), 26日(木), 28日(土), 29日(日), 31日(火), 11月1日(水),	12(9)	15	石橋 亘
5	陶芸講座	7月25日(火), 26日(水), 27日(木), 28日(金), 8月29日(火), 9月 5日(火), 13日(水),	7(5)	30	鎗田和平
6	金工講座	1月23日(火), 24日(水), 26日(金), 27日(土), 28日(日), 30日(火), 31日(水), 2月1日(木), 3日(土), 4日(日), 5日(火), 6日(水), 7日(木),	12(8)	15	小林正利
7	書芸講座	11月7日(火), 8日(水), 9日(木),	3(3)	25	中村象閣

() 内は講師の指導日数

平成7年度職員

館 長	木 村 卓 (～7.5.31)
〃	渡 邊 猛 彦 (7.6.1～6.30)
〃	森 成 吉 (7.7.1～)
副 館 長	小 池 賢 博
副 館 長 兼庶務課長	桐 谷 正 義
庶務課	
副 主 査(派)	大 堀 昭 一
主 任 主 事(〃)	積 田 秀 樹
主 事(〃)	川 内 啓 子
主任用務員(〃)	長 島 則 子

普及課	
普 及 課 長	藤 川 正 司
研 究 員 (派)	濱 田 芳 久
〃 (〃)	金 田 雅 成
主任技師 (〃)	相 川 順 子
〃 (〃)	中 松 れ い
学芸課	
学 芸 課 長	前 川 公 秀
研 究 員 (派)	高 橋 正 夫
〃 (〃)	太 田 武 彦
主任技師 (〃)	幅 大
〃 (〃)	加 瀬 綾 子
技 師 (〃)	三 浦 拓 郎

利用案内

開 館 時 間

開館時間 午前9時から午後4時30分まで

休館日 ・月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）
・年末年始（12月26日～1月4日）
・展示替え等のため、必要があるとき。

観覧料 ・無料（ただし、特別展は有料）
団体観覧 ・団体で来館されるとき、あらかじめ御連絡いただければ館の概要や事業等のガイダンスをいたします。

交通

★JR総武線千葉駅下車

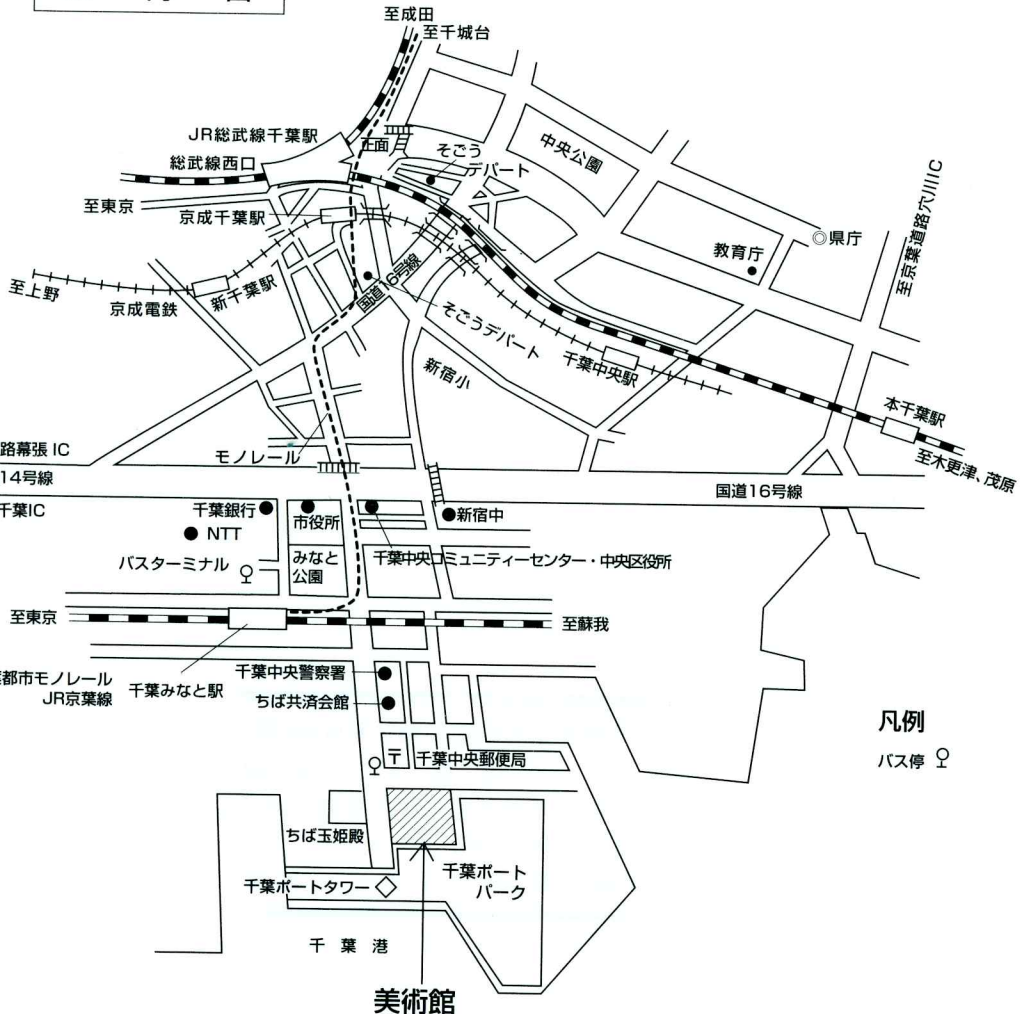
●徒步23分。

●バス⑥番のりばから「千葉ポートタワー」行
にて15分。「県立美術館前」下車、徒歩1分。

★JR京葉線千葉みなと駅下車、徒歩8分。

★千葉都市モノレール千葉みなと駅下車、徒歩8分。

案 内 図



千葉県立美術館年報（平成6年度）

発行 千葉県立美術館

〒260 千葉市中央区中央港1-10-1

TEL 043 (242) 8 3 1 1

印刷 株式会社さくら印刷

